学校法人南山学園

2025年度

事業計画書

NANZAN
SCHOOL CORPORATION

目　　次

理事長メッセージ（2023年4月1日付）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

中期計画第2期（2025～2029年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

設置校別事業計画

１．南山大学　・・・10

２．南山高等学校・中学校
（１）男子部　・・・13
（２）女子部　・・・18

３．聖霊高等学校・中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

４．聖園女学院高等学校・中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

５．南山大学附属小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

６．聖園女学院附属聖園幼稚園　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

７．聖園女学院附属聖園マリア幼稚園　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

８．法人本部事務部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

※　2025年度より、PDCAサイクルを確実に回すことを目的として、中期計画と単年度の事業計画・事業報告の連動性を高められる様式へ変更しております。

2023 年 4 月 1 日

教職員のみなさん

理事長メッセージ

学校法人　南山学園
理事長　市瀬　英昭

「カトリック学園としての教育モットー『人間の尊厳のために』のもと行われる教育・研究の場で学ぶ学生、生徒、児童、園児がそれぞれの場で『ともに学ぶ喜び』を感じ、全教職員が本学園の教育理念を理解して、ここで『ともに働く喜び』を感じて、学園としてその教育事業の実りを日本社会と世界へ向けて発信する」

教育モットーの由来

1907 年 9 月 8 日、3 名の神言修道会（以下、「神言会」）会員が日本での宣教活動のために神言会総本部より派遣され横浜に上陸しました。1909 年 8 月には、将来、南山学園を創設することになる同会会員のヨゼフ・ライネルス神父（1874 年～1945 年）が来日しています。日本におけるカトリック教育の重要性を痛感していたライネルス神父は「高潔、誠実、善良であれ」「一人ひとりは、必ずひとつの尊い使命を与えられた、かけがえのない存在である」との確信のもと、名古屋の地に、1932 年に南山中学校を 1936 年には南山小学校を設立し、今日の南山学園の礎を築きました。

その後、多くの先達の努力と善意の方々の献身的な働きによって引き継がれてきた南山学園は、名古屋聖霊学園および聖園学院との二度の法人合併（1995 年および 2016 年）、名古屋聖霊短期大学、南山大学短期大学部、南山国際高等学校・中学校の閉校（2004 年度末、2019 年度末、2022 年度末）を経て、2023 年 4 月 1 日現在、愛知県と神奈川県において、幼稚園から大学まで 8 つの単位校よりなるカトリック総合学園となりました。本学園はキリスト教世界観に基づく学校教育を目指しており、学園内の各単位校はそれぞれの歴史と校風を持ちながら学園全体の方向性について教育モットー「人間の尊厳のために」(Hominis Dignitati）を共有しています。この教育モットーは、南山学園創立者ライネルス神父の信念を引き継ぐ形で、第 7 代南山学園理事長アルベルト・ボルト神父（1908 年～1990 年）が発案したものです。しかし、それは個人的な理想ではなく、キリスト教世界観に深く根ざしたものとなっています。それはまた、一人ひとりが、例外なく、「神の似姿」に創造された侵すことのできない存在であるという聖書的人間観です。

新型コロナウイルス感染症拡大を経験している現在、また、世界に起きている様々な紛争や災害を目の当たりにする中で、「人間の尊厳のために」は本学園のみならず、広く社会と世界へ向けて発信されるべきメッセージになったと言っても過言ではありません。今後、様々な困難を経て、世界は積極的に「共に生きていく」ことについて考え、実践する方向へ

舵を切るのではないかと思われます。確かに、自然を含む「他者との共生」への道は険しいものですが、人類が生き延びるために、それも単に生き延びるだけでなく、幸せに生きていくためにそのような方向性が必要であると思われます。政治も経済も法律も医学も科学もそして「教育」もすべて「人間のため」にあるのであって、決して逆ではないということは言うまでもありませんが、問題はそれらが「『すべて』の人間」の「『本当』の幸せ」に向けられているかどうかということです。南山学園の教育活動、研究活動が目指す目標はそこにあります。各単位校には、この共通の教育モットーを堅持し、それぞれの具体的な場で実践していただくようお願いいたします。

教育理念の実践のために

2017 年 4 月 1 日に理事長に就任した際には、本学園の基本方針と目指すべき方向性を再確認することを旨とし、ハンス ユーゲン・マルクス前理事長が 2016 年 4 月 1 日に掲げられた理事長基本方針を継承する形で理事長方針をお示ししました。理事長の再任に際し、また、2032 年の学園創立 100 周年まで 10 年という節目にあたり、理事長メッセージとして、南山学園が掲げる教育理念（「宗教性の涵養」、「知的理解と厳しい知的訓練」、「地域社会への貢献」、「国際性の涵養」）について、私なりの理解をお示しし、教職員のみなさんと共有したいと思います。そのうえで、本学園の教育理念の具体的な実現に向けて、みなさんが考え、行動するうえでの道しるべとなるキーフレーズをお示ししたいと考えます。

「宗教性の涵養」

これは、カトリック学園としての教育・研究活動の基礎をなす部分です。宗教という場合、二つ次元を区別しそれを関連付けることが肝要となります。一つは、すべての人間に共通の普遍的な宗教性ともいうべき次元の宗教です。他は、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教、仏教といった個別の具体的な宗教です。この意味における宗教は、具体的な「窓」であると言えるでしょう。キリスト教という「一つの窓」から見ると世界は「どう見える」のか、そしてどう「ともに生きていける」のか、それらを学ぶ機会が本学園では提供されます。諸宗教は、それぞれの独自性と個性を生かしながら協力し、世界の平和のために貢献することが求められており、キリスト教もその貢献に参加しています。各単位校におけるアプローチは当然のことながら異なります。幼年期には、実際の体験が重要視されますが、世代が上がっていくにつれて知的、理論的な表現が必要となります。とりわけ大学においては高度で客観的な理解がなされることにより、異なる立場の他者とも知的なレベルの対話を可能とすることが求められています。これは、教育理念の次の側面へと進みます。

「知的理解と厳しい知的訓練」

この点についても各単位校での取り組みはそれぞれ異なっていますが、すべての知識

や学びは独善的な方法でではなく、他者との対話の内に獲得されるものであるとの理解が共有されています。自分と他者との事柄に誠実に関わっていく中で真理へと近づく姿勢が大切となります。学びにおいては「知的」な側面だけでなく、総体的なアプローチが必要となります。その意味で、従来の「主要科目」（主に 5 教科）とそれ以外の「周辺科目」といった区別は再考を迫られることになります。すべての科目が大切であり、すべては繋がっています。重要ではない科目はありません。「認知能力」だけでなくコミュニケーション力、共感力、忍耐力などを指す「非認知能力」の大切さを想起したいと思います

「地域社会への貢献」

すべての知識と学びの実りを自分のためだけにとどめておくことはできず、周囲へ広がっていく、ということに関連しています。南山学園は地域社会に支えられ、地域社会とともに成長してきました。これまでにのべ 22 万人を超える卒業生を輩出し「人間の尊厳のために」を実践する社会作りに貢献してきました。地域社会とのつながりも各単位校においてそれぞれ異なりますが、各単位校で独自の実践を継続してくださるようお願いします。この貢献は地域社会への恩返しという意味も含んでいます。

「国際性の涵養」

南山学園の最初からの関心事でもあります。世界に存在する様々な国と文化に尊敬の念をもって接し、その出会いと対話による学びを大切にします。その際、自国の文化についての学びの重要性も再認識することになります。自らの文化と言語に関する理解なくしては、他文化・他言語との実りある対話は期待できないからです。人間だけでなく他の動植物が「ともに暮らす家」（教皇フランシスコ『ラウダート・シ』）である地球の上でさまざまなつながりの中で生かされているという事実に目覚め、すべて人が「他者」について責任を持っているとの自覚の上に行動を起こすとき、わたしたちは、真の意味の国際人となるのではないでしょうか。

教育理念の実践には、学園に属する全構成員のみなさんとともに、直面する様々な課題に向き合い、行動しなければ実現はできません。健全な財政的基盤を確保するための「基準財務シミュレーションに示される目標額の達成」や、各単位校における目的および事業計画を具現化した基本的方策となる「中期計画」（2020 年度～2024 年度）の実現、自律的な学校運営のための「ガバナンス・コード」の遵守は、その大前提となります。それぞれ立場は異なりますが、みなさまそれぞれの立場から、どのような取り組みができるのか考え、行動していただくようお願いします。さらに、教育理念の実践を考えるうえでの道しるべとして、以下のキーフレーズをお示しします。新たな取り組みに着手する際、既存の取り組みの見直しをする際、何か困難に直面した際、このキーフレーズに焦点を当ててくださるようにお願

いいたします。

① 各単位校が自校の歴史と校風を大切にしながら、一つの学園としてのアイデンティティを保つこと
② 各単位校間の連携、情報交換を促進すること
③ ミッションスクールの良さをアピールすること
④ 学園外の社会とりわけ同窓生との繋がりを大切にすること
⑤ 学園内の全教職員が本学園の歴史や理念を深く知る機会を持つこと
⑥ 学園の全構成員が誇りと喜びを共有できる学園を具体化すること

将来へ向かって

変化の激しい現代社会にあって世界と日本における「教育」が今後どのような展開を遂げていくのかについて正確に予測することはできません。しかし、どのような変化の中にあっても本学園の教育モットーは変わることがありません。この教育モットーの大きな方向性を共有しながら、教育理念の実践のために、各単位校は、それぞれの方法で具体的な課題に丁寧、誠実に取り組んでいただきたいと思います。人間の尊厳には、自然を含む「他者への責任」ということが含まれます。「人間は責任的存在である」と言われますが、この「責任を持つ」という在り方、あるいは、見返りを求めない「無償の愛」という行為は、時代がいかに変化しようとも、ＡＩやロボットが取って代わることのできない、人間の尊厳に固有な特長であり続けるであろうと思われます。人間の尊厳に生きることは抽象的な概念の中にではなく実際の生き方によって具体化されるはずのものです。人間の尊厳に生きる、それは、例えば、他者の中に、「宝」を見いだしそれを輝かせる、というような在り方である、とも言えます。教育の現場で必要とされているのは、向き合う相手に自身の尊厳を自覚させるような対話的な関わりではないでしょうか。これは教職員のみなさんの間にあっても同様です。教職員のみなさんには、本学園に属する学生、生徒、児童、園児が、自分たちの中にある宝、素晴らしさに気付きそれを伸ばしていく、誰かの、何かの役に立つことが喜びとなるような指導と関わりをお願いいたします。今後も、南山学園が、単なる現状肯定ではなく、あるべき社会の形成へ向けて貢献する人材を送り出していくことができるよう、学園に属する全ての構成員のみなさんのご協力を今一度、お願いする次第です。

以上

1　全体計画

■１－１　本学園のミッション

【建学の理念】
キリスト教世界観に基づき学校教育を行ない、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材を育成する。

【教育モットー】
Hominis Dignitati（人間の尊厳のために）

南山学園は、1932 年に旧制南山中学校を設置して以降、愛知県と神奈川県に幼稚園から大学院までを擁するカトリック総合学園に発展し、90 年の長きにわたり教育活動を展開しています。南山学園が、すべての教育の基盤においているキリスト教世界観の要は、「一人ひとりの人間がまさに一個人としてかけがえのない存在であり、侵すべからざる尊厳をもつ」という考えです。したがって、キリスト教世界観に基づく教育の目標は、一人ひとりがまず自分の尊厳に気づき、その理解を深めると同時に他者の尊厳も認め、ともに人間の尊厳が尊重され、推進される社会づくりに役立とう、という生き方を培うことです。この建学の理念を端的に表現するために、南山学園の設置校はラテン語で Hominis Dignitati、すなわち「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを掲げており、これまでに延べ 24 万人を超える人々が学び、その卒業生たちは「人間の尊厳のために」を心の拠りどころとして、社会に貢献しています。

グローバリゼーションの加速に伴い、国家・地域間の紛争や新型コロナウイルス感染拡大など様々な問題が発生し、少子化・人口減少や高齢化、子供の貧困、社会のつながりの希薄化などの社会問題も顕在化しています。このような予測困難な時代であるからこそ、本学園は、カトリックミッションスクールとしての特徴や役割を自覚し、引き続き「人間の尊厳を尊重かつ推進する」人材を、学校教育を通じて育て、社会に役立たなければなりません。

昨今の社会情勢や日本における教育をめぐる現状・課題・展望が示された「新たな教育振興基本計画」（2023 年 6 月 16 日閣議決定）などを踏まえ策定した「南山学園中期計画（第 2 期：2025 年度～2029 年度）」について、理事会のリーダーシップのもと、各設置校がさらに実績を積み重ね実践していきます。

■１－２　基本方針

(1)　学園としての戦略

南山学園は、2032 年、学園創立 100 周年を迎えます。学園創立 100 周年を迎えるにあたり、改めて南山学園の歴史や教育事業の歩みを振り返り、生徒等や卒業生、保護者・保証人、南山学園を支えて下さる企業などの多様なステークホルダーに南山学園が行う教育事業の理解を深めていただくとともに、南山学園の全構成員が、南山学園の存在意義や未来の姿を共有することができる機会とできるよう、学園創立 100 周年記念事業について検討します。また、南山学園が「人間の尊厳を尊重かつ推進する」人材の育成を継続し、更なる発展に資するための長期ビジョン「Nanzan Vision 100」を新た

に策定します。

(2) 教育・研究

2023 年 4 月 1 日付で「理事長メッセージ」が示され、南山学園が掲げる 4 つの教育理念（「宗教性の涵養」、「知的理解と厳しい知的訓練」、「地域社会への貢献」、「国際性の涵養」）について、改めて理事長よりその理解が示されました。今後、4 つの教育理念の具体的な実現に向け、学園の構成員が考え、行動するうえでの道しるべとして示されたキーフレーズについて、理事会のリーダーシップのもと長期ビジョン「Nanzan Vision 100」に組み込み、具体化を進めます。

(3) 施設・設備

南山学園で学ぶすべての学生・生徒等が、充実した学校生活を送るためには、安心して過ごすことのできる施設・設備の整備は重要です。南山学園ならびに設置校にはそれぞれ歴史があり、同様に、施設・設備も独自性を有しています。今後も、「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づいた資金計画や修繕・更新工事を行い、南山学園ならびに設置校の施設・設備の整備を進めます。また、南山学園ならびに設置校のキャンパス・校舎等の整備計画等について、その将来構想計画を策定し、長期ビジョン「Nanzan Vision 100」に組み込む形でマスタープランを策定します。

(4) 社会・地域貢献

南山学園は、キリスト教世界観に基づく教育事業を通じて、多くの卒業生を輩出し、「人間の尊厳のために」を実現する社会づくりに貢献してきました。また、教育資源・研究成果を地域や社会に開放・還元することも大切にしています。今後は、設置校が独自に行っている様々な活動を、南山学園として支援し、更に推進することができるよう「社会・地域貢献ポリシー」を策定し、支援・推進するための組織や人員体制について検討します。

(5) 財政計画

南山学園が教育・研究活動を継続するためには、安定した財政基盤の確立の必要性は言うまでもありません。南山学園では、2022 年度、南山学園ならび設置校の将来的な財政目標に示した「南山学園財政にかかる中長期目標」（2023 年度から 2027 年度までの 5 年間）を設定しました。今後、収入の安定化・多様化と支出の最適化を図りつつ、まずは上述の中長期目標の実現を目指します。一方、教育・研究活動の更なる発展のためには、中長期目標の達成にとどまらず、継続的な収支均衡の実現が必要不可欠です。そのためには、限られた資産を有効に活用するとともに、設置校の枠を超え、南山学園の構成員が一丸となって財政改善に取り組みます。

(6) 組織運営と人材育成

2025 年 4 月 1 日に私立学校法が施行されました。南山学園においても、法改正の趣旨を鑑み、理事会、評議員会を中心としたガバナンス改革を進め、2025 年度から新しい組織体制・運営が始まりました。今後、新しい組織体制・運営の実効性と継続性を検証し、必要に応じて見直しを行います。また、南山学園の運営を担う人材を継続して登用していくことができるよう、設立母体であるカトリック神言修道会と連携しながら人材育成に努めます。

また、南山学園として戦略的かつ組織的に学生生徒等納付金以外の収入（寄附金、補助金等）を

獲得できるよう、組織体制ならびに人員体制のあり方について検討します。

■１－３　具体的実施計画（アクションプラン）

(1)　学園としての戦略

・学園創立 100 周年に向けた取り組み

長期ビジョン「Nanzan Vision 100」の策定・公表

学園創立 100 周年記念事業の検討

南山大学における新たなグランドデザインをはじめとした設置校の将来構想計画の策定

・教育モットー「人間の尊厳のために」の継承ならびに具現化

SD（スタッフ・ディベロップメント）の推進

宗教教育のあり方や行事の見直し

(2)　教育・研究

・4 つの教育理念の実践

4 つの教育理念および理事長メッセージに示されたキーフレーズの具現化

国際性の涵養に資するカリキュラムの見直しならびに国際交流プログラムの充実

南山大学における教学マネジメント体制の確立と実施

・学園内連携の推進

スケールメリットを活かした学園内連携の推進

愛知県内設置校と神奈川県内設置校の連携推進

聖園女学院高中校を中心とした聖園幼稚園、聖園マリア幼稚園との連携推進

(3)　施設・設備

・安全・安心に過ごすことのできる施設・設備の整備

将来構想計画のマスタープラン策定

「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく整備計画の実施

・教育環境施設・設備の充実

体育施設の有効活用に向けた改修、整備

ICT 教育環境機器の配備・更新

遊休資産の有効活用に向けた検討

(4)　社会・地域貢献

・社会・地域貢献活動の更なる推進・支援

設置校の様々な活動を支援するための「社会・地域貢献ポリシー」の策定

ボランティア活動や募金・献金等の地域貢献活動の推進

・教育資源・研究成果の社会や地域への開放・還元

南山大学におけるカトリック系高中校との連携

南山大学における研究機関および MLA の相互連携に基づく学知の社会還元推進

(5) 財政計画

・教育・研究活動を継続するための取り組み

「南山学園財政にかかる中長期目標（2023 年度から 2027 年度までの 5 年間)」の実現

適切な入学・収容定員の管理

ファンドレイジング（寄附金募集）の意識醸成と組織づくりの推進

補助金獲得に向けた取り組み強化

・教育・研究活動の発展に向けた取り組み

必要に応じた学納金改定の検討

(6) 組織運営と人材育成

・組織運営の強化

私立学校法改正に伴う新体制・運営、ガバナンス改革の検証・見直し

教職員の働き方改革を推進するための校務分掌の見直し、外部人材の活用

・人材育成の推進

DX の推進に伴う業務効率の改善

以上

3　計画の実行管理

■３－１　策定管理と執行管理体制

(1)策定管理体制

・本中期計画の策定管理は、理事会の下に設置されている学園総合企画委員会が行う。学園総合企画委員会は全体計画の政策的立案を行うほか、各設置校および法人本部が作成する個別計画について確認および助言を行い、中期計画全体の策定を行う。

・中期計画の策定にあたっては、各設置校および法人本部の意向を個別計画にて反映させる。また、学園評議員会に諮問し、評議員による外部意見を反映させる。

・中期計画の策定および変更は学園評議員会の意見を聞いた上で、学園理事会にて決定する。

(2)執行管理・評価体制

・本中期計画の執行管理は、理事会の下に設置されている学園自己点検・評価委員会が行う。学園自己点検・評価委員会は、中期計画期間中において、単年度事業報告の確認により、中期計画の進捗管理を行う。必要に応じて計画の変更を理事会に提案する。また、中期計画期間終了後は、中期計画の評価と次期への課題を明らかにし、理事会に報告する。

・理事会は、中期計画の進捗状況ならびに実施結果について、経営上の課題や成果を明らかにしたうえで学園評議員会に報告する。そこでの評議員による意見を踏まえ、更なる経営改革を推進する。

(3)情報公開

・理事会は、中期計画の進捗状況ならびに実施結果について、Web ページ等で法人内外に公表する。

■３－２　計画の期間

本中期計画は、2025 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日までの 5 か年を対象とする。

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-1 南山大学》

南山学園中期計画				マイルストーン					2025年度			
大項目	中項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(1)大学としての戦略	(1)-1 新たなビジョンの策定	(1)-1-1 新たなグランドデザインの策定	(1)-1-1-1 ・2007年策定「南山大学グランドデザイン」の検証 ・委員会の編成と検討 ・新たなグランドデザインの公表と実施	委員会の編成・検討作業	新グランドデザインの検討	新グランドデザインの公表	新グランドデザインの実施・普及	新グランドデザインの実施・普及	・2026年度に完成する現行のグランドデザインの実施状況を検証する。 ・2027年度から実施するグランドデザインの策定に向け、20年後の大学像に関する検討に着手する。			
		(1)-1-2 新たな国際化ビジョンの策定	(1)-1-2-1 ・2015年策定「南山大学国際化ビジョン」の検証 ・委員会の編成と検討 ・新たな国際化ビジョンの公表と実施	委員会の編成・検討作業	新国際化ビジョンの検討	新国際化ビジョンの公表	新国際化ビジョンの実施・普及	新国際化ビジョンの実施・普及	・2015年に策定した現行のビジョンの実施状況を検証する。 ・新たなビジョンの策定に向けた検討に着手する。			
	(1)-2 建学の理念の継承	(1)-2-1 周年事業に向けた体制整備	(1)-2-1-1 ・学園創立 100 周年事業(2032年) ・大学創立 100 周年事業(2046年)	年史編纂および周年事業企画体制の編成	年史編纂および周年事業企画立案	年史編纂および周年事業企画立案	年史編纂および周年事業企画立案	学園創立100周年事業の課題提示	・山里キャンパス60周年事業を継承するプラットフォームサイト「YAMAZATO60+」を開設する。 ・学園および大学創立100周年事業に向けたロードマップを検討する。			
		(1)-2-2 宗教性の涵養	(1)-2-2-1 ・建学の理念「キリスト教世界観に基づく教育」と教育モットー"Hominis Dignitati（人間の尊厳のために）"への教職員の関心を高め理解を深め、さらに学生への浸透を進める。	FD/SD委員会で企画を検討	FD/SD企画として実施	FD/SD企画として実施	FD/SD企画として実施	FD/SD企画として実施	・「宗教性の涵養」を視野に入れつつ、全学的にSDとFD体制を再整備する。 ・「人間の尊厳」科目等の授業を通じて「人間の尊厳賞」の意義を学生に浸透させる連携を検討する。			
(2) 教育・研究	(2)-1 教育の質保証	(2)-1-1 教学マネジメントの確立	(2)-1-1-1 ・2027年認証評価受審までに、「学習成果の適切かつ多角的な把握・評価」および「大学院収容定員に対する在籍学生数比率の改善」について検証する。 ・教学マネジメント体制を整備する（アセスメントテスト、学修達成度・学修行動調査、卒業生・企業調査の実施、内部質保証への学生参画等の各事業を実質化）。 ・学修成果・教育成果の把握・可視化した結果をIRとしても活用し、教育の質保証に活かす。	教学マネジメント体制の確立と実施。	取り組みを点検・評価し、次年度の認証評価のための自己点検・評価報告書を提出する。	認証評価の実地調査までに取り組みに係る資料を提出するとともに実施後の評価結果について把握する	認証評価の結果を検証しこれまでの振り返りおよび結果を分析し更に質保証に活かす	教学マネジメントに係る各事業の点検・評価結果の活用等を更に発展させ教育の質保証の充実を図る	・2025年新設の教学マネジメント推進委員会を通じ、教育の実質的な質保証を実施する。 ・シラバスを改修し教育の質保証に対応させるとともに、すべての学生を対象としてアセスメントテストを実施する。 ・学修成果可視化システムを導入し、その円滑な実施を促す。			
		(2)-1-2 時代の要請に応じた新たな教育プログラム	(2)-1-2-1 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの導入と実施	数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（MDASH）申請	MDASH認定予定	プログラムの検証	プログラムの検証	プログラムの検証	・2026年度に実施する教育プログラムに向けて新規科目の導入などを含め提案する。 ・アントレプレナーシップ教育、サービスラーニングなどを含めた教育の充実を検討する。			
		(2)-1-3 多様な学生の受け入れ	(2)-1-3-1 少子化時代における新たな入試制度に向けた体制を整備する。高大連携の推進、年内入試の拡充、中長期的な入試戦略を各学部・学科と連携しつつ検討する学内組織を再編する。	年内入試を拡充するとともに、入試制度を支える体制を整備する。	入試制度を検証する体制を整備する。また、高大連携を拡充する。	計画的かつ継続的に入試制度を検証する。	計画的かつ継続的に入試制度を検証する。	計画的かつ継続的に入試制度を検証する。	・すべての学部において総合型選抜を導入する。 ・入学センターの新設に伴い、入試結果の検証および大学教育の魅力を受験生に伝える入試広報を充実させる。			
	(2)-2 国際教育の拡充	(2)-2-1 国際共修科目の充実	(2)-2-1-1 対面型国際共修科目（オープンコース）、オンライン型国際共修科目（NU-COIL)の拡充と、それを支えるためのLearning Communityの整備	Learning Communityの形成と国際共修科目の拡充	国際共修科目の拡充	国際共修科目の拡充	国際共修科目の拡充	国際共修科目の拡充	・新たな国際化推進事業によって、COILの手法を用いる科目と、外国人留学生別科のオープンコース科目を増加させる。 ・NU Global Learning Communityを設立し、教員同士のネットワークを構築する。			
	(2)-3 大学院教育の充実	(2)-3-1 大学院教育における新たな教育体制の整備	(2)-3-1-1 大学院におけるリスキリング教育、リカレント教育 学部教育と大学院教育の連続性を意識した学位プログラム 大学院生を対象とする国際化推進	新たな教育体制の検討	新たな教育体制の検討	新たな教育体制の実施と広報	新たな教育体制の点検評価	新たな教育体制の点検評価	・リカレント教育の実現可能性について、大学院各研究科で検討する。			
	(2)-4 研究力の強化	(2)-4-1 学術交流・研究連携体制の充実	(2)-4-1-1 海外研究者受け入れ体制の充実 学内諸組織が協力して行う研究を積極的に進めるための研究支援体制の強化	現状の検証	新たな体制の検討	新たな体制の実施	新たな体制の検証	新たな体制の検証	・国際化推進事業を通じ、個々の教員による研究活動を支援するとともに、海外協定校との教育・研究両面にわたる交流を促進する。 ・ジブリパーク・オフィシャルパートナーの企業と連携し、本学と企業、自治体による産学官共創事業を構想する。			
(3)施設・設備	(3)-1 キャンパス整備	(3)-1-1 既存施設の点検・改修	(3)-1-1-1 体育施設、国際学生寮、情報ネットワーク等の点検・改修	現状の検証	新たなあり方の検討	新たなあり方の提案	新たなあり方の実施	新たなあり方の検証	・既存施設の現状を点検する。			
		(3)-1-2 多様性に配慮したキャンパス整備	(3)-1-2-1 多様な背景をもつひとたちが過ごしやすいキャンパス環境を整備する。	現状の検証	新たなあり方の検討	新たなあり方の提案	新たなあり方の実施	新たなあり方の検証	・省エネ・節電に努める等環境に配慮した行動をするとともに、建物・施設のさらなるバリアフリー化を図るような改修を継続する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-1 南山大学》

南山学園中期計画				マイルストーン					2025年度			
大項目	中項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(4)社会・地域貢献	(4)-1 学知の社会還元	(4)-1-1 南山大学の研究機関およびMLAの相互連携に基づく学知の社会還元推進	(4)-1-1-1 研究所、研究センター、人類学博物館、ライネルス中央図書館の連携によるイベント、公開講座、刊行物公表等の実施、および、それらについての広報の統括体制の構築	現状の検証	検証を踏まえた実施・広報体制の検討	実施・広報体制の導入	社会還元活動の実施	社会還元活動の検証	・ライネルス中央図書館を中心に、セミナー室やラーニングコモンズ等の関連施設との有機的な連関を有する知的交流スペースの創出に向けて現状を検証する。 ・本学の研究所・研究センターの活動が多くの人びとに周知され評価されるための新しいウェブサイトを開設する。並行して本学の研究推進体制を再整備する。			
	(4)-2 社会連携の推進	(4)-2-1 STATION Aiの活用 南山エクステンション・カレッジの体制の再整備	(4)-2-1-1 STATION Aiの積極的な活用方法、地域内の他大学や企業との連携事業の可能性を検討し、アントレ教育と産学連携両面での新しい社会・地域貢献の活用方法を探る。 南山エクステンション・カレッジの組織体制を見直し、より効果的に社会貢献できる地域拠点となることを目指す。	現状の検証	新たなあり方の検討	新たなあり方の提案	新たなあり方の実施	新たなあり方の検証	・現行のカリキュラムに潜在するアントレプレナーシップ教育を掘り起こし、本学独自のアントレプレナーシップ教育コースを構想する。 ・地域のスタートアップ施設等を通じて様々な事業者と連携し、様々な社会課題の解決を志向するアントレプレナーシップを広く育む土壌をつくる魅力的なプログラムを立案する。			
	(4)-3 カトリック連携	(4)-3-1 カトリック中高との連携強化	(4)-3-1-1 学園内外のカトリック中高との連携を強化する。	連携プログラムの検討	連携プログラムの実施	連携プログラムの実施	連携プログラムの検証	連携の強化	・カトリック系中学校・高等学校を中心に高大連携をさらに推進する。 ・カトリック系高等学校8校を対象とする高大連携講座を実施する。			
		(4)-3-2 カトリック系高等教育機関との連携強化	(4)-3-2-1 国内外のカトリック系高等教育機関との連携を強化する。	国際共修・協定校の拡充	国際共修・協定校の拡充	連携の検証	新たな連携推進	新たな連携推進	・カトリック系中学校・高等学校との包括連携協定の拡充を継続的に進める。カトリック系高等学校との包括連携協定に基づいた高大連携の具体的な取り組みを整備・実施する。			
(5)財政計画	(5)-1 健全かつ効果的な財政の実施	(5)-1-1 適切な財源の確保	(5)-1-1-1 中長期的な財務予測に基づき、学生納入金改定も視野に収入額全体の改善策を検討し、適切な時期に収入改善を実施する。	改善策の検討	改善策の検討	改善策の検討	改善策の検討	改善策の検討	・学生納入金改定を視野に入れつつ収入額全体の改善策を検討する。			
			(5)-1-1-2 収容定員充足率に注視し、確実に収入額が確保できるような定員管理を実施する。	適切な収容定員管理の実施	適切な収容定員管理の実施	適切な収容定員管理の実施	適切な収容定員管理の実施	適切な収容定員管理の実施	・入学センターの新設に伴い、一般選抜の検証と年内入試の充実を戦略的な観点から行う。			
			(5)-1-1-3 学生納入金以外の収入（補助金、寄付金、付随事業収入、受託事業収入など外部資金）の獲得を積極的に取り組む。	外部資金獲得方策検討	外部資金獲得前年度比UP	外部資金獲得前年度比UP	外部資金獲得前年度比UP	外部資金獲得前年度比UP	・すべての教職員が財政的視点をもって仕事をする。 ・「ほまれはここに我が南山」学生応援募金事業を創設する。			
		(5)-2-1 適切な予算編成の実施	(5)-2-1-1 健全な財政と中長期事業計画の両立に向けて、予算編成方法を見直す。	過年度における予算と決算の乖離分析を行い、新たな予算編成方法を検討する。	新たな予算編成方法の実施	新たな予算編成方法に基づく補正、決算の検証	新たな予算編成方法に基づく補正、決算の検証	新たな予算編成方法に基づく補正、決算の検証	・過年度における予算と決算の乖離分析を行い、新たな予算編成方法を検討する。			
			(5)-2-1-2 毎年度、当年度収支差額の収支均衡を目標とする。	収支均衡の実現	収支均衡の実現	収支均衡の実現	収支均衡の実現	収支均衡の実現	・収支均衡の実現に向けて、学納金改定および支出削減計画策定小委員会を通じ、支出額の削減案を検討する。			
(6)組織運営と人材育成	(6)-1 人材育成の推進	(6)-1-1 FD、SDの継続的な実施	(6)-1-1-1 さらなる教職員の能力と意識向上のため、魅力ある企画の立案・実施に取り組む。	現状の検証	新たな企画の検討	新たな企画の提案	新たな企画の実施	新たな企画の検証	・教育の質保証を支えるFD・SD活動を活性化させる。 ・建学の理念へのさらに深い理解を促すFD・SD活動に取り組む。			
		(6)-1-2 教員評価の有効活用	(6)-1-2-1 各学部・各研究科の教員評価の実施制度を点検・評価する。	現状の検証	評価・改善	評価・改善	評価・改善	評価・改善	・各学部・各研究科における自己点検・評価等を通じて教員評価の在り方を検討する。			
	(6)-2 組織体制と運営基盤の整備	(6)-2-1 大学設置基準の改正に基づく組織運営の整備	(6)-2-1-1 基幹教員制度の導入にむけた継続的検討	基幹教員制度の検討	基幹教員制度の検討	基幹教員制度の導入	基幹教員制度の実施	基幹教員制度の評価	・基幹教員制度の導入に向けて準備に着手する。			
		(6)-2-2 学内におけるダイバーシティの推進	(6)-2-2-1 多様な背景を持った教員の採用	現状の検証	新たなあり方の検討	新たなあり方の提案	新たなあり方の実施	新たなあり方の検証	・募集・採用、会議体や意思決定過程等の参画のみならず学生生活においてもジェンダーバランスに配慮する。 ・多様な背景をもつ人たちが対話を通じて相互理解を深めつつ共生できる環境の実現を目指す。			
		(6)-2-3 対話を通じた大学・学部運営	(6)-2-3-1 IR推進室が提供するデータに基づき、教学実践の点検・評価・改善を継続的に実施する組織風土をつくる。	学内外向けデータの整理と利活用の検討	学内外向けデータの整理と利活用の検討	2027年認証評価受審	評価結果を踏まえた改善検討	評価結果を踏まえた改善の実施	・対面での対話はもちろん、データに基づいた対話を通じて、大学の内部質保証に資する活動を展開する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-1 南山大学》

南山学園中期計画				マイルストーン					2025年度			
大項目	中項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
		(6)-2-4 戦略的思考の組織的浸透	(6)-2-4-1 大学DXの推進 業務の見直しと作業量の軽減	現状の検証	新たなあり方の検討	新たなあり方の提案	新たなあり方の実施	新たなあり方の検証	・DXの推進とAIの活用を含め、業務改善のあり方について、各部署に対話を進め、より働きやすい環境の実現を目指す。			

*1) 評価欄は、〇（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
　　進捗を把握するため〇（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-2 南山高等・中学校（男子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(1)学校としての戦略	(1)-1 創立100周年に向けた学校の価値の確認と記念事業の実施、およびその先に向けたビジョンの策定	(1)-1-1 創立100周年(2032年度)に向けた取組の検討において、南山男子部の創立からの歴史を顧み、地域の中で、ミッションスクールとして、南山学園の設置校としての男子部の役割や価値を再確認し、男子部の未来に向けた「ビジョン」を創立95周年の2027年度に示す。	【創立93年】 校内WGの設置、WGにて歴史の確認・価値の検討	【創立94年】 校内WGで答申のとりまとめ、周年行事企画への発展・移行、「男子部ビジョン(仮称)」の素地づくり	【創立95年】 100周年に向けた「男子部ビジョン」の策定・公表	【創立96年】	【創立97年】	「将来構想委員会」を再構築し、創立100周年に向けた取組の第1歩として、これまでの周年行事の資料の確認を行い、本校の歩みを確認する。			
		(1)-1-2 学園創立100周年は男子部創立100周年でもあり、事業を学園と協働しながら、周年行事を2027年度以降順次検討し、計画を進める。2027年度中学入学生が2032年度度高3となる、2027年度からアニバーサリープロジェクトを始められるようにする。		(1)-1-1を踏まえアニバーサリープロジェクト(広報)検討	☆2032年度高3となる生徒入学 ・広報プロジェクト開始 ・周年企画検討			－			
	(1)-2 選ばれる男子校であるための教育の深化	(1)-2-1 2030年度末までに、男女別学で教育を行うとした創立時からの理念や考え方を再確認し、「男女別学教育の良さ」を再度構成員で認識し、教育活動に反映していく。広く社会に共感・理解いただきながら「選ばれる男子校」となることを目指す。	100周年WGにおいて、創立時の理念等と男女別学の意図の再確認を行う	構成員での共有と 2027年度以降広報計画への反映検討	定期的な再確認と、カリキュラム等への反映、点検・改善			「将来構想委員会」を再構築し、創立100周年に向けた取組の第1歩として、これまでの周年行事の資料の確認を行い、本校の歩みを確認する中で、設立時の理念や男女別学の意図の再確認を行う。			
		(1)-2-2 2030年度末までに、南山学園の教育モットーである『人間の尊厳のために』、校訓『高い人格、広い教養、強い責任感』の再認識を行い、男子部の特色を再評価するとともに、男子部の特色が教育モットーおよび校訓の実現に収れんされていくようカリキュラムや行事等の改善をめざす。	校内WGの設置、WGにてスクールミッション・ポリシーの確認・学校評価による教育反映の点検	前年度点検結果による改善と年度ごとの点検の継続				各種学校活動について自己点検・評価を行う校内組織を定め、自己点検・評価が機能する組織体制を構築する。			
(2)教育・研究	(2)-1 安心・安全な学校および教育環境の構築	(2)-1-1 発生が予測されている南海トラフ地震や近年の異常気象その他自然災害に対する備えとして、BCPの作成および学校安全計画や危機管理マニュアルの毎年の整備・更新、必要な設備等の充実を通じて、防災・危機管理体制について点検と改善を重ねていく。	BCP・学校安全計画・危機管理マニュアルの点検と改善・充実 防災につながる施設設備の点検と更新					2025年3月に作成したBCPおよび改正危機管理マニュアルを校内危機管理委員会において点検・評価し、現実に運用できるものになるよう改善を進める。 また、防災にかかる設備について法令上の点検だけでなく、操作方法の確認等を進める。			
		(2)1-2 中高生を取り巻くさまざまなトラブル（SNS・いじめ・熱中症やケガ等）に対して適応し、社会の一員としての意識を高めることができるよう、安全や公共マナーに関する教育に積極的に取り組むとともに、トラブル発生時の学校側の対応についても毎年点検し、さらに充実させていく。	各種安全教育の実施と充実 学校安全計画・危機管理マニュアルの点検と改善・充実・教職員研修の実施					中1を対象としたネットモラル研修および自転車交通安全研修、高校生においては体育の授業の一環としてAED取扱講習を継続して実施する。 また、校内危機管理委員会を中心に、各種計画・マニュアルの点検と改善を実施する。			
		(2)-1-3 学校の防犯・不審者対策の強化のため、セキュリティにおけるハード面の対応強化および講習会や研修を通じた構成員の防犯意識向上によるソフト面の対応強化を図る。	防犯・不審者対策の取組について点検し、改善事項を抽出する	改善事項に順次対応・予算確保				警察や警備業者等の協力も得ながら、学校に求められる必要な不審者対策への対応状況を点検・確認し、課題を抽出する。			
	(2)-2 さまざまな教育連携による「南山男子部だからできる教育」の実践	(2)-2-1 南山大学との教育連携について、現在の連携をさらに改善・深化させ、学園内連携推進協議会や高大協議会を軸に、南山大学との新しい連携取組を充実させる。	各種会議体や南山大学との連携協議の場をもち、取組の企画・推進を行う					南山大学との新たな連携事業を2025年度中に最低1件取組開始できるよう、検討する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-2 南山高等・中学校（男子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
		(2)-2-2 女子部を含めた学園内中学校・高等学校との教育連携について、学園小中高連絡協議会や学園内連携推進協議会等を軸に、教職員・生徒間での人的交流、正課・課外活動での連携を増加・充実を推進する。	各種会議体や高中校との連携協議の場をもち、取組の企画・推進を行う					学園内中学校・高等学校との教育連携の可能性について、関係する学園所管会議体を軸に、他単位校と意見交換を行い、可能性を探る。			
		(2)-2-3 他のカトリック中学・高等学校や現在連携協定を結んでいる上智大学との連携を強化し、ミッションスクールの特色を活かした教育連携を検討・企画する。	他カトリック学校・大学との連携の可能性について調査	他カトリック校・大学との連携について関連校との調整	具体的締結に向けた調整・対応			愛知県私学協会や中部地区カトリック学校連盟の組織を活かした、カトリック校間の教職員・事務職員交流の機会や、上智大学での新たなプログラム開発の可能性について、関係各校と相談・企画を行う。			
	(2)-3 ダイバーシティ＆インクルージョンの教育への反映と実践	(2)-3-1 近年入学が増えてきている外国にルーツを持つ生徒や帰国生徒の受入への対応を含めた編入学・転入学のあり方について、2030年度までに検討を進める。	ニーズと対応可能性について検討を行う。		対応の方向性を出す。	方向性に基づき制度設計について議論を深める		執行部および教務部を中心に、外国にルーツを持つ生徒や帰国生徒の受け入れにおける課題を検討し、取りまとめる。			
		(2)-3-2 障がいのある生徒と障がいのない生徒が共に学ぶインクルーシブな教育について、これまでの受入実績と合理的配慮の義務化を踏まえ、男子部での可能な制度と対応のあり方について、2030年度までに検討を進める。	これまでの障がいのある生徒の受け入れ実績からの課題を抽出し、対応できていること、対応準備が必要なことを洗い出す。		対応の方向性を出す。	方向性に基づき制度設計について議論を深める		執行部および教務部を中心に、障がいのある生徒のこれまでの受け入れ実績や社会から求められる事項を確認し、本校での受け入れにおける課題を検討し、取りまとめる。			
	(2)-4 「南山の国際性」の継承と変革	(2)-4-1 海外留学および外国人と直接触れ合う機会の提供を強化するため、神言会設置中等教育機関を含めた海外提携校・協定校の開発について2032年の創立100周年に向けて検討を進める。	協定を必要とするプログラムを検討し、どのような協定先が望ましいか検討する。		協定先の選定・開発の進め方を調査し、可能であれば交渉を進める			国際交流委員会を中心に、男子部における国際性の涵養・向上に必要な取組について検討したうえで、海外提携校・協定校の締結を行った際の効果についても検討し、方向性を見出す。			
		(2)-4-2 外国語を用いたカリキュラムや校内プログラムについて、現在の取り組みを強化することおよび英語以外の言語について取り組むことの可能性について検討する。	現状のプログラムをレビューし、強味・弱みを明確にする。		より強化していく方向性について、具体的な対応を検討する。			ネイティブ教員による少人数クラスでの英会話の授業、グローバル・スタディ・プログラム、英語部、イタリアキリスト教文化研修（高校）、オーストラリア研修（高1）、ニュージーランドターム研修（中3）の活動といった現在の外国語関連プログラムを評価・検討し、強み・弱みを明らかにする。			
(3)施設・設備	(3)-1 アクティブラーニングを推進する環境の整備	(3)-1-1 探究学習の実践やPC1人1台体制を考慮して、図書館・自習室・PC教室の既存施設の将来計画およびラーニングコモンズの新設等、教室以外の「学びの場」の有機的な連携を計画し、2032年の100周年にむけて再構築する。	アクティブラーニング推進に向けた施設設備のあり方を検討	既存施設の改修や施設整備に向けた段階的整備計画の決定	2032年度完成に向けた段階的整備（5年計画）			執行部および教務部において、アクティブラーニング推進に向け、どのような「学びの空間」としたらよいか、業者提案も含め、可能性について検討を行う。			
	(3)-2 体育施設の熱中症対策の推進	(3)-2-1 体育館への2025年度中の空調設備設置を含め、屋内施設の冷房設置や屋外施設への日よけ設置等、夏季の高温対策・熱中症防止対策を継続的に進める。	体育館への空調設備設置	屋外体育施設への対策検討・実施				県補助金を活用し、体育館に空調設備（エアコン）を設置する事業を実施する。			
	(3)-3 校舎メンテナンスの実施による校舎の維持と高寿命化	(3)-3-1 現校舎の建築から10年経過する2027年度・2028年度を中心とした校舎維持および高寿命化に向けたメンテナンス計画と実施を進める。	メンテナンス計画の精査		メンテナンス①（屋根・外部修繕）	メンテナンス②（屋根・外部修繕）	メンテナンス③（屋根・外部修繕）	事務室を中心に、学園の定める施設設備ライフサイクルを基本に、現状設備の点検を含め、今後の更新計画をまとめる。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-2 南山高等・中学校（男子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(4)社会・地域貢献	(4)-1 教育活動におけるSDGsの達成に向けた取組の強化と実践	(4)-1-1 教育活動の中での関わることができる項目について検討し、可能なところから取り組んでいくことで、教育を通じて社会課題の解決に協力する。	SDGsを意識した教育活動の展開と評価、改善の実施					SDGsを意識した教育活動について、各教科の協力を得ながら新規に3件程度の取組を進める。			
		(4)-1-2 生徒会による「スプリングカーニバル」や奇術部による出張演技等、児童福祉施設やひとり親家庭、養護施設等で生活するさまざまな子どもたちと、男子部ができるかかわりを持ち、「人間の尊厳」を大切にし、実践する機会を継続的に持つ。 (目標10：人や国の不平等をなくそう)	各種施設との連携、生徒の派遣・参加を通じた交流の場の設定と継続					生徒会によるスプリングカーニバル、奇術部を中心とした、ひとり親家庭や児童養護施設の児童を招いたイベントを継続して実施する。			
		(4)-1-3 部活動や近隣他校生徒との協働による「地域清掃」を継続し、また八事興正寺やいりなか商店街のイベントへの男子部生徒の参加などを通じて、地域とのつながりを持ち、まちづくりに貢献する。 （目標11：住み続けられるまちづくりを）	「地域清掃」の継続と関わることのできる地域行事等への参画					女子部および中京大学附属中京高等学校と連携し、合同地域清掃等の再開等地域貢献に向けた協議を行い、実施する。			
	(4)-2 「地域に愛され、地域に育ててもらう私立学校」となるために	(4)-2-1 南山高中を応援する近隣に住む方々により立ち上げられた「友の会」との連携を強め、奨学金や財政的援助にとらわれない、地域の声を反映し、応援いただける学校づくりを進める。	友の会75周年を契機とした、学校との連携強化の検討					本校の活動に理解・共感をいただく地域や一般の方による支援組織である、「南山中学高校友の会」が創立75周年を迎える。友の会の記念事業への協力を通じて、学校と友の会との連携強化の機会とする。			
		(4)-2-2 これまであまり関わりを持つことができていない、地域自治会等との連携・情報共有を進め、学校活動への理解を求めるとともに「地域の中での南山男子部」を意識して地域活動に取り組むことのできる素地を作る。	地域自治会等との顔合わせ・参画可否の調整・打診		学校運営への地域自治会とのかかわりを増やす		教育活動と地域とのかかわりを増やす	学園の地域との窓口部署にも協力いただき、地域自治会についての情報収集を行い、役員との顔合わせを行うことを目指す。			
(5)財政計画	(5)-1 「財政に係る中長期目標」の実現に向けて	(5)-1-1 「南山学園財政に係る中長期目標」の実現に向けて、実現可能性のある収入増・支出減の施策を検討し実行するとともに、校舎建築借入金返済後の財政復旧計画の立案を行う。	校内での目標実現施策および財政復旧計画の検討、学園財務部署との調整					支出減・収入増につながる取り組みを継続的に行う。また、校舎建築借入金返済後の財政復旧計画について財務課とも調整し、検討を開始する。			
	(5)-2 収入増への取組	(5)-2-1 男子部の財政改善のためには「収入増」を図ることが必要であり、寄附金収入を増加させる取組を進める。 男子部教育をより社会に理解してもらうことでファンを増やしたり、常盤会との連携して寄付者への特典を設ける等従来の枠を超えた「支援の輪」を広げる取り組みを立案・実行する。	寄附金増加・収入増加に向けた取り組みを学園とともに検討。	特典付寄附についての検討と調整 (学園・常盤会・外部組織等)	特典付寄附について実行	特典付寄附について評価・改善		クレジットカード決済による寄附が可能なことの広報強化に着手する。その1つの方法としてパンフレット作成を行う。			
		(5)-2-2 補助金について詳細な調査を行い、獲得できるものは獲得し、財政の一助とする。	補助金獲得の現状分析、追加獲得の可能性の調査と評価	追加獲得できる補助金を獲得した事業実施、評価、更なる改善				昨年度の経常費補助金の分析を踏まえ、経常費補助金獲得について戦略的に取り組み、収入増を目指す。また、体育館への冷房設置事業について補助金を活用して実負担の軽減を図る。			
		(5)-2-3 保護者負担を強いる授業料改定については、安易に行うべきものではないが、財政改善方策の1つとして排除するものではなく、継続してその必要について検討を行う。	社会情勢や財政状況を踏まえた授業料改定の可能性の検討					2027年度の入学検定料、入学金、授業料等納入金の改定の是非について、他校の動向や社会情勢を踏まえながら検討を行う。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-2 南山高等・中学校（男子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
	(5)-3 ペーパーレス化の更なる推進	(5)-3-1 ICT化に伴い活用できるICT活用は活用し、可能なものについてのペーパーレス化を推進し、校内における年間紙使用枚数（購入枚数）を毎年1割ずつ削減していく。	年間使用枚数の前年度1割減を進めていく					中学3学年・高校2学年が1人1台端末を持つことになったことを活用したペーパレス化を進める。特にテスト返却等について対応を検討する。			
	(5)-4 広報活動の推進による生徒数の安定的な確保	(5)-4-1 中学入試を目的とした広報活動について、保護者や小学生のニーズにあったものを常に模索し、単年度受験者数目標800名および入学定員の継続的確保を行う。	受験者数および入学者数の確保に向けた取組の実施	前年度事業の評価・改善を踏まえた広報活動により、受験者数・入学者数を確保				2025年度入試では過去最高の902名の志願者を獲得した。引き続き説明会・塾訪問活動を継続するとともに、Webページやパンフレットでの「受験を検討する保護者のかゆい所に手が届く学校情報の提供」の工夫を強化し、志願者確保に向けて取り組む。			
(6)組織運営と人材育成	(6)-1 教員の教育力・指導力向上	(6)-1-1 校内教員研修を毎年1回、教育や生徒対応等さまざまなテーマで実施する。	校内教員研修の企画と実施					2025年度も救命救急講習やエピペン使用方法等「生徒の命を守る」研修を予定し、安心安全な学習環境維持の一助とする。			
		(6)-1-2 教員間での授業公開を推進し、お互いに授業を見合うことでICTの活用能力や教科指導力の向上に資する仕組みを整える。	校内授業公開の仕組みについて検討	試験的実施	評価・改善・実施			校内授業公開について、どのように取り組むことができるか、執行部を中心に検討を行う。			
		(6)-1-3 男子部での教育実践の成果を校外にも発信するため研究紀要『FORUM』の発刊を復活させ、隔年を目安に実施する。	研究実施	成果とりまとめ紀要発刊	研究実施	成果とりまとめ紀要発刊	研究実施	日常的に行っている教員による授業研究を継続する。次年度に研究成果を紀要として取りまとめられるようにする。			
		(6)-1-4 愛知県私学協会による教科部会活動をはじめ外部研修への参加を奨励し、また指導力向上に関連する資格取得の支援等の仕組みを構築する。	研修の紹介と奨励、資格取得支援の仕組み検討		研修の紹介と奨励、資格取得支援の実施			さまざまな研修の機会に教員を参加させ、また英語科教員の指導力向上の方策として検定試験の受験を奨励する。			
	(6)-2 「ミッションスクールであること」の理解と実践	(6)-2-1 新任用研修の機会だけでなく、カトリック精神やミッションスクールの目的・目指す方向性を定期的に再確認できる機会としての校内教職員研修の機会を設け、実施する。	研修機会について検討し、実施に向けた準備を行う。		研修の実施			執行部および宗教科を中心に、カトリック精神にかかる校内教職員研修の機会について検討を行う。			
		(6)-2-2 日本カトリック小中高連盟や中部地区カトリック学校連盟等が主催する外部研修へ教職員を派遣し、構成員のカトリックやミッションスクールの役割についての理解を深める。	カトリック関連外部研修への派遣の推進					6/26-27第35回全国カトリック学校校長・教頭合同研修会(兵庫)、8/20中部地区カトリック学校連盟教育研修会に参加者を派遣する。また、中部地区カトリック学校連盟の会長校としての責務を果たす(2024年度・2025年度)。			
		(6)-2-3 カトリックと本校教育活動の関連について理解を在学生保護者に深めてもらうために、育友会主催「春の講演会」へのカトリック関連講師の選定への協力を継続して行う。	講師選定への協力と講演会の実施支援					2025年度は、カトリック名古屋教区・松浦悟郎司教の講演を依頼し、開催準備を進めている。2026年度の講師選定については女子部と協力して12月頃行い、ミッションスクールである南山の教育について保護者への浸透と理解を深めることに協力する。			
	(6)-3 時代にあわせた教員の働き方の見直しと実践	(6)-3-1 教員の働き方に関連して、部活動や試合付き添い等を含めた土日の学校活動のあり方について、労働環境や学校に求められる役割に関する社会情勢や学園内での議論等を踏まえ、再検討を行い、必要な見直しを行う。	学校活動の見直しに伴う勤務形態の見直しと改善					2025年度は執行部を中心に、部活動運営を含めた現状の学校活動と教職員の勤務体系における課題を洗い出す。法令に基づく労務対応については学園と協働して進める。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-2 南山高等・中学校（男子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
		(6)-3-2 学校運営を安定的・永続的に行うため、年齢構成や経験年数を基準とした教員採用計画の実施および中堅教員の主任・部長職への登用を積極的に進める。	教員採用計画に基づく採用と教員の育成					教員年齢構成および教科配置を参考に、教員採用計画や役職への登用について計画的に行えるよう体制を整備する。			
	(6)-4 教職協働の実現に向けた取組の実施	(6)-4-1 学校に求められている役割の増加により教員・事務職員の負担が近年高まっていることから、教員業務の一部を「支援員」や「助手」に移行したり、教員・事務間業務や人員配置の見直しを行ったりして、教職協働して1人当たりの業務負担を平準化・軽減することを学園の協力も得て実施する。	支援員・助手についての活用可能性の検討および教職業務分担の見直し					現在助手・支援員は、理科実験助手とICT支援員を配置しているが、その他の助手・支援員の活用の可能性、教員と事務職員の業務連携の見直しについて、執行部・部長を中心に年間を通じて検討する。			

*1) 評価欄は、〇（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
　進捗を把握するため〇（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-3 南山高等・中学校（女子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(1)学校としての戦略	⑴-1　「人間の尊厳のために」という建学の精神についての共通理解をはかる	⑴-1-1　学校行事や特別活動、総合的な学習(探究)の時間などの活動を、建学の精神を念頭に置きつつ随時見直しを図っていく。とりわけコミュニケーション・スキルを磨くための活動に重きを置く。	年度毎に検証を行いつつ内容を策定・実施					スクール・ミッションの周知を図る。			
	⑴-2　男女別学のミッションスクールとしての魅力を活かしていく	⑴-2-1　女子校で教育を受けることのメリットと、確固たる価値観（キリスト教的人間観）を持っているからこそ多様性に対して柔軟な思考で応えていけることを、在校生や保護者の生の声を活かすなどして広報活動を行う。	女子校の魅力を伝える女子校イベントの開催					東海地区(愛知・岐阜・三重)私立女子中学校COLLECTION(第2回)を開催する。			
	⑴-3　6ヵ年一貫にとどまらない視点	⑴-3-1　中高の分断のない完全6ヵ年一貫の伝統を活かしつつ女子部独自のスタイルをつくりあげていく。同時に、南山大学附属小学校や南山大学・大学院、系列校との連携・交流等についても、新規の取り組みを検討する。	南山大学附属小学校との連携・交流を重点に検討					南山大学附属小学校の教職員および児童との交流等について検討・協議を図る。			
(2)教育・研究	⑵-1　宗教性の涵養	⑵-1-1　異なる立場の人々とともに生きていくことができるよう、生徒の宗教性を養うことをめざし、これまで行ってきた宗教教育のあり方やプログラムの内容を再検討し、実施する。	年度毎に検証を行いつつ内容を策定・実施					静修会(中1・中2)とクリスマス修養会(中1希望者)のあり方について再検討を行う。			
	⑵-2　カリキュラムおよび教育支援の整備	⑵-2-1　新カリキュラムがスタートし、2024年度に高校の年次進行が完了する。2025年度以降は教科毎に内容を検証しつつ見直しを図っていく。	年度毎に検証を行いつつ内容を策定・実施				新カリキュラムの検討	共通テスト等新課程入試の分析を行い、必要な大学入試対策を講じる。			
		⑵-2-2　次期教育課程改定に向け情報収集および検討を進める。	中央教育審議会等の動き情報収集	中央教育審議会等の動き情報収集	中央教育審議会等の動き情報収集	新カリキュラムの検討	新カリキュラムの検討	中央教育審議会等の動きについて情報収集を図るとともに、現行カリキュラムについて検証を行う。			
		⑵-2-3　多様化する生徒の実態に合わせた教育相談・教育支援の体制について検討し、整備していく。	年度毎に検証を行いつつ内容を策定・実施					「合理的配慮」を求められるシーンが増える傾向にあることから、その中身について学校としてできることを具体的に見極めていく。			
	⑵-3　国際性の涵養	⑵-3-1　海外の学校との姉妹校提携や交換留学制度について準備委員会を立ち上げ検討を開始したことを受け、「国際性の涵養」に資する国際交流プログラム策定・実施する。	提携交渉開始	姉妹校提携を結び、交流事業開始				オーストラリア(メルボルン)の公立女子校との交換留学プログラム(第1回)を実施する。			
(3)施設・設備	⑶-1　新体育館建設	⑶-1-1　第１体育館の老朽化に伴い、当初は建替えを検討したが、現行の建築基準では同規模・同敷地への建替えは困難であることが明らかとなった。2034年の新体育館建設に向けて学園内関係各所と協議し用地を取得するとともに、第2号基本金の組入を行い建築資金を準備していく。	第2号基本金2,500万円組入	第2号基本金3,000万円組入	第2号基本金3,000万円組入	第2号基本金3,000万円組入	第2号基本金3,000万円組入	新体育館建設に向けて、用地の取得交渉を行うとともに、資金調達のための特別寄附金募集計画について関係支援団体(育友会・常盤会・友の会)との協議を行う。			
	⑶-2　ICT環境の拡充・更新・活用	⑶-2-1　構内の主教室には電子黒板機能付大型提示装置が常設され、Wi-Fi環境もある程度整備されたが、拡充・更新を行っていく必要がある。BYAD(Bring Your Assigned Device)方式による一人一台端末環境を活用した学習活動および課外活動にはまだまだ課題があり、同時に教員のスキルアップも図っていく。また、ストレスなくICT環境を活用できるよう、専門のスタッフ(ICT支援員)の常駐化も検討していく。	更新内容・時期等検討					普通教室プロジェクター(10台)・教職員貸与タブレット端末(67台)の更新、およびPC教室2のPC(43台)・サーバ等のリプレイスを行う。			
(4)社会・地域貢献	⑷-1　ボランティア意識の育成	⑷-1　年に2回実施している地域清掃とクリスマス献金等の寄附活動を継続していくが、新規の全学的な活動についても検討していく。同時に、学年やクラス単位、部活動レベルでボランティア活動等への参加意欲が高められるよう、啓発活動を行っていく。	年度毎に検証を行いつつ内容を策定・実施					ボランティアに関する啓発活動(外部からの募集を含む)を随時行う。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-3 南山高等・中学校（女子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(5)財政計画	⑸-1　寄附金募集の拡大	⑸-1-1　2020年度から一般寄附金の募集を開始したが、理解・周知には至っていない。新体育館建築に向けた寄附金募集など特別寄附金の募集についても検討する。	一般寄附金募集	一般寄附金募集	一般寄附金募集	一般寄附金募集・特別寄附金募集検討	一般寄附金募集・特別寄附金募集開始	常盤会(同窓会)会報誌に一般寄附金募集の案内を掲載する等、周知を図る。			
	⑸-2　各種実習費や補習費等の値上げ検討	⑸-2-1　2023年度より年次進行で学納金の月額3,000円の値上げを行ったが、昨今の物価上昇等に一部吸収され、大きな改善に至っていない。各種実習費や補習費、証明書発行手数料等の値上げについて検討する。	実習費、補習費の検討	実習費、補習費の検討	学納金改定の検討	学納金改定の検討	学納金改定の検討	実習費や補習費、証明書発行手数料等の値上げを検討する。			
(6)組織運営と人材育成	(6)-1　働き方改革の具体化	(6)-1-1　2020年度から勤怠管理システムを導入し、客観的な労働状況の把握を行っているが、多忙感・負担感を持つ教職員は少なくない。教職員の話を聞きながら校務分掌等の見直しを図っていく。外部人材の活用、人員増についても検討する。	部活動手当の支給開始					平日の部活動指導等課外活動に対する手当の支給実現に向けて育友会と協議する。			
	(6)-2　部活動のあり方・体制についての見直し	(6)-2-1　部活動のあり方が大きく変わろうとしているが、私学ならではの魅力をアピールする重要な課外活動の一つでもあることから、現状の見直し（部活動数の縮減）を図りつつも、必要と認めるものについては持続可能な体制づくりをめざす。	教員、生徒・保護者からの意見聴取					水泳部とソフトボール部の廃部手続きを行うとともに、引き続き部活動の維持・縮減について検討する。			
		(6)-2-2　校外で行われる大会等への引率が可能となる「部活動指導員」等外部人材の活用を制度化するなどして対応し、教員との協働で生徒たちの活動を可能なかぎり保証していく体制をつくる。	教員、生徒・保護者からの意見聴取					「部活動指導員」等外部人材の活用について、教員、生徒・保護者の意見を聞きながら制度設計に取りかかる。			
		(6)-2-3　「部活動指導員」の制度化を検討する。財源については、部活動担当教員への手当を含め、育友会と連携・協力して持続可能な仕組みを作っていくことをめざす。	教員、生徒・保護者からの意見聴取					財源については、受益者負担の原則に従って育友会と協議しながら進める。			

*1) 評価欄は、〇（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため〇（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-4 聖霊高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(1)学校としての戦略	(1)-1 聖霊創立100周年に向けて	(1)-1-1 聖霊の全構成員が、南山学園の存在意義や未来の姿を共有することができるよう「人間の尊厳のために」を意識・理解し、ともに創立以来のモットー「光の子として生活せよ」の元に日々の教育活動に心を込めてあたる。	タウンホールミーティングの実施方法の検討	1つの単位校でタウンホールミーティングの試行	タウンホールミーティングの本格実施	タウンホールミーティングの実施	タウンホールミーティングの実施	2025年度は、南山学園と合併してから30周年の年にあたる。一方で聖霊会からシスターの派遣が無くなる年度でもある。これらを強く意識して①教育モットーの達成②建学の精神と教育理念の浸透③教育活動の蓄積と伝統の振り返り、を3つの柱に構成し、校長・宗教科・宗教教育委員会を中心にワーキンググループを作る。			
	(1)-2 教育理念の具体化	(1)-2-1 2024年度に創立75周年を迎え、シスターによる記念講演会、記念行事のバンテリンドームでの運動会、写真アルバム＆アーカイブズと聖霊会＆聖霊中高アーカイブズ、記念事業の聖家族像の設置、冬コート・夏カーディガン・体操服見直しなどを通して、あらためて本校の存在意義を確認した。100周年に向けて、昔の事をたずね求めて、そこから新しい知識・見解を導きながら、時代の先を見据えた教育活動を目指す。	スタッフおよび関連する臨時の委員会および運営委員会を中心に推進					ワーキンググループにおいて、2024年度に迎えた創立75周年の機運を繋ぎながら、創立100周年に向けてカトリック系女子一貫校として持続的かつ発展的に推進していくための準備を進める。			
	(1)-3 聖霊校としての戦略	(1)-3-1 アドミッションポリシー（AP）に基づく生徒募集活動の点検、中学・高校の教育課程の元、新しい学力観に基づいたカリキュラムポリシー（CP）の構築、大学入試改革に対応しながら、女子中高一貫校として新たな時代を生きる女性を目指すグラディエーションポリシー（GP）の開発など、聖霊の学校像を組み立て、賢明な児童に選ばれる学校づくりを目指す。	生徒募集活動の点検と修正	生徒募集活動の点検と修正	生徒募集活動の点検と修正	AP・CP・GPポリシーの確認	AP・CP・GPポリシーの修正	2024年度に策定したスクールポリシーを基盤に、生徒募集活動の点検と修正を入試推進委員会と広報部を中心に進める。そのために広報活動と入試の結果および2024年度中に収集したアンケート等を分析し、改善を図る。			
	(2)-1 校舎の教育的活用	(2)-1-1 校舎や施設設備、キャンパス全体の活用について、年間を通して教育的効果を向上させながら、活力ある学校生活を工夫する。	整備計画の確認とリサーチ	整備計画を検討	整備計画を踏まえ聖霊校の将来構想計画を検討	マスタープランを長期ビジョンに組み込み策定	整備計画の確認とリサーチ	施設・設備の経年による修繕費は財政面で大きな負担となっているが、一方で体育館の施設空調設備の設置が急がれている。施設空調（冷房）設備の整備のための補助率が２分の１に引き上げられたことを受け（期限あり）、2026年度中の設置を目指し検討を進める。そのために、当初の中期計画の前倒し、2026年度中の設置を目指して検討進める。			
		(2)-2-1 新指導要領の骨子が2024年度秋に示される見込みです。高校の教育課程における選択講座や総合的な探究学習の指導内容について、最短期間を想定して校内での研究を進め、中学生徒募集から高校卒業後の進路指導までの新しい6年一貫の指導課程の検討など準備を進める。	新指導要領についての情報収集と研究	新指導要領についての情報収集と研究	新指導要領についての情報収集と研究	中学周知徹底	中学先行実施と教科書検定 高校周知徹底	次期新学習指導要領の議論が2024年度の秋に始まり、各教科で学びの本質となる「見方・考え方」を設定する・カリキュラム・マネジメントを提起する・多様な背景を持つ生徒たちへの対応を改善するなど5つのポイントが示された。教務部が中心となり、現行の新学習指導要領の深化と合わせて、次期新学習指導要領の情報収集と研究を進めて有機的なカリキュラムの作成と移行を目指す。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-4 聖霊高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(2)教育・研究	(2)-2 中学高校の教育課程の改訂と大学入学共通テストへの対応	(2)-2-2 大学入学共通テストに対して、これまでの大学入試動向を踏まえつつ、大学ごとの入試情報や指導方針などを教員間で共有し、新しい時代の進路指導の在り方を全教職員の共通する指導目標に位置付ける。大学入試共通テストはまだ改革の道半ばにあるため、引き続き想定と修正を続けながら高い完成度の対策で対応する。	現在の指導要領下での大学入学共通テストへの対応と、新学習指導要領への移行期間における対策を継続して行う					2025年度・大学入学共通テストに情報Ⅰが加えられたが、万全かつ丁寧に対応を進めてきたため順調に進めることができた。今後の修正等についても、進路指導部を中心に研究を進め対応する。			
		(2)-2-3 中学3年生で実施する職業体験やハローワーク講座、高校生の校外事業所でのインターンシップなどの活動を、それぞれの年齢にふさわしい職業観の育成や、将来の進路選択の基となる活動として継承する。	引き続き、担当部署や担当学年が中心となってキャリアプログラムを充実させる					これまでの積み重ねの中で育ててきたキャリアプログラムを安定的に推進し、プログラムへの参加者について前年度並み（中3生全員、高校156人）を目指す。			
	(2)-3 オーストラリア海外研修およびアイルランド語学研修の見直し	(2)-3-1 利用航空便、参加生徒数、引率教員のありかた、現地校滞在日程などについて、海外研修として安定した形態、参加生徒保護者の評価の向上などを目標に、年度ごとの評価と修正を継続する。	海外研修について人数の調整 相手校来日	海外研修において調整した人数で試行	海外研修において調整した人数で試行 相手校来日予定	海外研修において再調整した人数で実施	海外研修において人数を確定 相手校来日予定	アイルランド語学研修については、国際情勢と安全性の面から当分の間実施を見送るる代わりに、ニュージーランド語学研修を引き続き実施する予定である。 2025年度は、オーストラリア海外研修は生徒20名＋教員3名、ニュージーランド語学研修は生徒20〜24名＋教員1名で募集する。オーストラリア海外研修先の姉妹校（MSJ）は、12月初旬に来校する予定であり、2019年度以来5年ぶりに相互交流が実現する。			
	(2)-4 南山大学・南山大学附属小学校・学園内中学・高校との連携	(2)-4-1 学園創立100周年記念事業を検討するためのワーキンググループの設置と交流を通して、共同参画する場面の増加とともに具体的な計画を立て実践する。 地理的な要因を超えて、部活動・文化活動・オープンスクールなどでの児童生徒間の交流や提携、さらに教職員間の教科指導などでの交流の機会を検討する。	タウンホールミーティングの実施方法の検討	1つの単位校でタウンホールミーティングの試行	タウンホールミーティングの本格実施	タウンホールミーティングの実施	タウンホールミーティングの実施	2024年度は、2度のタウンホールミーティングが本校で実施された。理事長の来校に伴い、何れも全教員参加とした。共同体としての一致を目指すことから、今後も全教員参加というかたちで進める。			
	(2)-5 「EVE, My 青春！」の継続実施と実施場所等将来設計の検討	(2)-5-1 愛知芸術文化センター・コンサートホールでの屋内開催（フルバージョン）と、Hisaya-odori Park・メディアヒロバでの屋外開催（120人規模）セットで実施する形を基本として、芸術文化センター・コンサートホール（抽選制）の代替措置を「EVE Ｍｙ，青春！実行委員会」で検討しつつ、伝統ある行事を継続実施していくとともに、行事の将来像を検討する。	「EVE Ｍｙ，青春！実行委員会」による運営 コンサートホールの抽選結果によって柔軟に計画					発祥の地である「久屋大通りパーク（旧もちの木広場）」にて開催するために、2024年度は2部制で実施した。成功裏に収めることができた結果、他の施設で実施する必要が無くなった。今後は久屋大通りパーク（旧もちの木広場）での実施を前提に「EVE, My 青春！実行委員会」で改善を重ねて行く。			
	(2)-6 中学校入試ならびに高等学校入試の総合的な見直し	(2)-6-1 最新の入試結果を踏まえて入試日程、入試内容、対外的な広報活動等を年度ごとに見直し、それぞれの定員生徒数を安定して確保しながら、生徒層の向上、拡大を目指す。	入試推進委員会および広報部およびスタッフや運営委員会を中心に推進					広報活動と入試結果および2024年度中に収集したアンケート等を分析し改善する。公立入試が大きく変わって3年目になるが、その影響等を精査しさらに洗練された入試の運営を目指す。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-4 聖霊高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(3)施設・設備	(3)-1 ICT機器の教育利用を中心とした教育環境整備	(3)-1-1 ICT教育機器の導入を実施し、生徒用のタブレット導入や教職員へのICT教育機器配備を進めながら、学習指導における効果的な活用や校務における運用等を進める。その成果に基づいて次期ICT教育環境の整備計画を立案する。	PC教室のデスクトップPC再リース 生徒用タブレット端末導入2年目、ほか教員用タブレット端末	PC教室のデスクトップPCリースⅡ期1/5年目 生徒用タブレット端末導入3年目(完成年度)、ほか教員用タブレット端末	PC教室のデスクトップPCリースⅡ期2/5年目 生徒用タブレット端末導入4年目、ほか教員用タブレット端末	PC教室のデスクトップPCリースⅡ期3/5年目 生徒用タブレット端末導入5年目、ほか教員用タブレット端末	PC教室のデスクトップPCリースⅡ期4/5年目 生徒用タブレット端末導入6年目、ほか教員用タブレット端末	2024年度から年次進行でタブレット1人1台の学習環境を整えている。2025年度からはインフラの整備だけでなく、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげるための情報機器であるため、ICT教育研究委員会と教務部を中心に教員の研修等を計画・実行する。			
	(3)-2 校舎の施設設備の確認と更なる施設設備整備の検討	(3)-2-1 施設設備の保守管理・定期点検等に必要となる経費を見極めながら、年間での保守・環境整備計画を立案する。	電気設備更新	空調設備更新	電気設備更新、浄化槽更新	電気設備更新	電気設備更新	10年単位の長期修繕計画を基本とする。直近5年間の中期計画は、毎年度の設備の耐用年数・部品供給限界と教育活動への効果を基準として整備優先度を決定しており、2025年度は耐用年数限界を迎える高圧受電ケーブル更新を行う。			
		(3)-2-2 第２体育館、グラウンドやテニスコートなど、補修や改修の必要性を見極めて整備計画を検討し、可能なところから改修・整備を進める。	財政状況だけでなく施設維持の必要性や安全性の観点から、優先度を意識して実施計画としている。					第2体育館の屋根の老朽化には部分修繕で対応し、部品供給限界を迎える普通教室棟のGHP入替を優先して行う。テニスコートは、表土の入替とラインテープ貼替を経常修繕費の範囲内で実施する計画である。			
(4)社会・地域貢献	(4)-1 募金活動	(4)-1-1 聖霊降臨祭、クリスマス聖式などの宗教行事において、全校生徒からの献金という形態で、聖霊会の関係する様々な事業所への支援を続ける。 国外国内の被災・戦災地域等に向けて生徒会などによる募金活動、学年単位や部活動単位で進められる募金活動を積極的に支援する。	カトリックの意味するギフトを意識し募金活動を実践する					学校として、聖霊降臨祭、クリスマス聖式等の宗教行事において募金活動を継続する。また、生徒会や学年単位を中心とした生徒活動として、災害復興支援や戦災地域支援など、国内外への支援としての募金活動を実施する。			
	(4)-2 ボランティア活動	(4)-2-1 夏季休暇中のボランティア活動だけにとどまらず、学校として継続的な支援活動を模索する。	奉仕の精神を元に経験を重ねる					キリスト教世界観に基づく教育の一環である奉仕活動として、希望者による夏期休業期間中のボランティア活動募集を積極的に行い、前年度並みの参加者数を目指す。また課外活動団体によるボランティア活動も継続して推進する。			
	(4)-3 地域との連携	(4)-3-1 公立陶生病院、愛知県赤十字血液センターや瀬戸市観光協会との連携のほか、中学3年生の職業体験において瀬戸市を中心とした事業所に生徒受け入れの協力をお願いする。	実践を通して自己を見つめる					コロナ禍以降、職業体験の受け入れ先を確保することが非常に厳しい状況であり、4年連続で実施できていない現状にはあるが、生徒から手紙を送ったり、教員がご挨拶に伺うなど、今後も丁寧に関係を保ち、諸団体・諸施設との連携を継続する。			
		(4)-3-2 創立記念式典での伝統行事「花いっぱい運動」で、生徒が持ち寄った花束を、瀬戸市長をはじめ地域の方々や、様々な施設に感謝の言葉とともに届ける。	奉仕する側と奉仕される側の等価値を認識 2025年度より総務部が中心となって推進し、担当学年である中学1年生の学年団と連携を取って進める。そうすることで伝統と現実的な対応のバランスをとる。					新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行後、ようやく担当学年の生徒全員の参加が叶った。2025年度は訪問先の回復を試みる。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-4 聖霊高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(5)財政計画	(5)-1 財政的課題の認知と維持継続	(5)-1-1 経常費補助金の獲得、寄附金募集の継続等、財政面において収支均衡を目標として収入確保に向けて努めるとともに、本校の将来を見据えた長期的な目標に向けて、スクールバス運営の財政改善に向けた料金改定や路線の見直し、ICT教育環境整備計画推進のための実習経費の徴収等を含めて継続的に検討・実施する。	→ 予算編成時、補正予算編成時、決算時に中長期目標との差額を確認し、必要に応じて財務担当理事との懇談機会を設ける。		→ 決算時に中長期目標の実現を確認する。			職員会議等で、継続的に行ってきた聖霊校の財政課題についてあらためて周知する。収入確保については確実な定員確保と補助金の獲得に努める。また全教職員で取り組んでいる光熱費の節約など、財政改善のための小さな試みも持続する。財務体質改善のため、2028年度に学納金改定を計画している。計画が遅延することのないよう、遅くとも2026年度には結論を出す必要があるため、2025年度からその準備に着手する。			
	(5)-2 キャンパスのメンテナンスコスト	(5)-2-1 広大なキャンパスのメンテナンスコストについては、中期的な整備計画に加えて長期的なマスタープランの策定を進めることで、警備、清掃、施設・設備と緑地の維持管理など分野ごとの必要性と財政収支の状況を見極めながら、全体として支出の抑制に努める。	→ 整備計画の確認とリサーチ	→ 整備計画を検討	→ 整備計画を検討	→ 整備計画を踏まえ聖霊校の将来構想計画を検討	→ マスタープランを長期ビジョンに組み込み策定	2021年度に設備に関する長期修繕計画を立てて以降、老朽化の進行や部品供給限界を考慮して毎年見直しながら計画を実行している。2024年8月、老朽化のために保守契約が結べなかったGHPの入替を2024年8月に実施しており、メーカー保守が切れる2025年9月から、新たに保守契約を取り交わして故障等に迅速に対応できる体制を作る。これによりコストはアップするが、定期点検整備を常駐の施設管理委託業者に作業させる等によりランニングコストの抑制に努める。緑地管理においては、賃上げによる委託契約上の人件費コストが増大するところは、ロボット草刈機を導入するなどしてコストダウンにつなげる。			
(6)組織運営と人材育成	(6)-1 校務組織について	(6)-1-1 役職人事や部署の配置および配属人数等、校務分掌組織全体の改編について年度ごとの評価をしながら継続的に検討する。	新教務部長	新生徒指導部長 新広報部長	新生徒会部長	新副校長 新中学教頭 新総務部長	新教務部長	部長人事を含む役職者人事において、次世代のリーダーとなる人材育成を意識した計画とするため、副部長的ポジションなど新たなロールの設置を検討する。			
		(6)-1-2 長時間労働の抑制のため、勤務時間内での会議のあり方、部活動、学校週番、勤怠管理や校舎管理方法なども併せ、様々な業務について総点検を進める。	→ 部活動改革 職員室退室時間の短縮	→ 部活動改革 職員室退室時間の短縮(前年度から更に15分)	→ 部活動改革 職員室退室時間の短縮(継続)	→ 部活動改革 職員室退室時間の短縮(前年度から更に15分)	→ 部活動改革 職員室退室時間の短縮(継続)	2019年度より学校の「働き方改革」が始まったものの大きな変化は起きていない。議論は停滞しており具体的な方策を立てるに至っていない。部活動改革は部活動検討委員会を立ち上げて2年目になる。アンケートを3回取り、部活動の数を減らし複数人顧問を強化するべく動いている。2025年度も、労働時間の抑制に向けて、全ての教員が「これまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、生徒たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすること」の理解を深め、「時間」や「豊かさ」への意識を高めるよう働きかける。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-4 聖霊高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
	(6)-2 教員の構成について	(6)-2-1 定年退職者数見込や教員組織全体としてバランスの取れた年齢構成とすることに留意しつつ、本校独自のカリキュラム構成に応じた教科ごとの授業数や教員数に基づく教員構成について継続的に見直す。	退職者3名分/国語・社会・技家、前倒し採用1名分/英語、AI採用1名分/英会話を採用する	前倒し採用2名分/数学・養護教諭、2025年度前倒し採用未決定1名分を採用する	前倒し採用2名分/国語・英語を採用する	前倒し採用2名分/英語・体育を採用する	退職者4名分（国語・理科・美術科2）を採用する	定年退職前の退職が増えた。理事会の承認を得て、単年度あたり2名の前倒し採用を行なっている。2026年度採用は、2024年度に採用できなかった英語科1名と前倒し採用対象の数学科1名・英語科1名・養護教諭1名の計4名の専任採用を予定している。			

*1) 評価欄は、〇（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため〇（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-5 聖園女学院高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(1)学校としての戦略	(1)-1　スクールミッションの実現	(1)-1-1　スクールミッションの実現 南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」を教育活動の中で具現化できるよう「信念・精励・温順」を校訓に掲げ、女子教育を通して、確かな学力を身につけ、人間としての生き方を学び、一人ひとりが自分の使命を自覚して成長することができる生徒の育成を通して社会に貢献することを目指す。 目標達成に向けて2025年度にワーキンググループを設置しスクールミッションの具現化、具体化を検討する。この検討結果について、2026年度以降にステークホルダーへの周知を図る。	ワーキンググループを設置しスクールミッションの具現化、具体化を検討する。	ワーキンググループでの検討結果について、ステークホルダーへの周知を図る。				スクールミッションの実現に向けて、2025年度中にワーキンググループを設置し、スクールミッションの具現化、具体化を検討する。			
	(1)-2　教育連携の強化	(1)-2-1　南山大学との教育連携 南山大学夏期模擬講義をはじめ、校内で行われている南山大学との連携について、2025年度に改めて整理し、学びの成果について調査する。この結果をもとに、2026年度以降、生徒の実態に合った南山大学との高大連携の取り組みを実施する。これらの取り組みにより、南山大学への興味や，広く大学での学びについて興味・関心を高める。	各部署で行われている南山大学との高大連携の取り組みについて整理する。 取り組んだ生徒から，学びの成果について調査する。	生徒の実態に合った南山大学との高大連携の形を模索し，教育連携の取り組みを実施する。南山大学への進学への結びつきについて検証する。				南山大学模擬講義、哲学対話講座など、各部署で行われている南山大学との高大連携の取り組みや、その内容について整理する。また、取り組んだ生徒から、学びの成果について調査を行い、効果について検証を行う。			
		(1)-2-2　上智大学との教育連携 2023年10月1日付で締結した上智大学との高大連携協定を基に実施されている具体的な教育連携について，2025年度に取り組みの内容や参加している生徒の情報について整理する。2026年度以降は参加生徒について追跡調査を行い、教育連携が生徒の進路探究にどのように結びついているか、生徒のフィードバックや学力、進路への結びつきをもとに調査し、教育連携の成果を検証する。	上智大学とのカトリック校としての高大連携の取り組みについて整理する。	取り組んだ生徒から，学びの成果や進路への結びつきについて調査・検証する。				上智大学との高大連携協定を基に実施されている高大連携の取り組みについて整理する。希望者対象の取り組みについても、必要な生徒により確実に周知し、参加を促せるよう体制を整える。			
		(1)-2-3　清泉女子大学との教育連携 2024年8月1日付で締結した清泉女子大学との高大連携協定における具体的な教育連携について、2024～2025年度に検討する。2026年度以降は参加生徒について追跡調査を行い、教育連携が生徒の進路探究にどのように結びついているか、生徒のフィードバックや学力、進路への結びつきをもとに調査し、教育連携の成果を検証する。 （この項目では2023年度から取り組んでいる「MISONO竹林プロジェクト」以外の取り組みを対象とする。参照：本計画(4)-2-1「聖園女学院の豊かな自然環境を生かした取り組み」）	清泉女子大学との高大連携の取り組みについて検討する。	取り組んだ生徒から，学びの成果や進路への結びつきについて調査・検証する。				清泉女子大学との高大連携協定に基づく具体的な高大連携の取り組みについて検討し、2025年度中に実施可能なものについては、取り組みを開始する。			
								【新規取組】 昭和医科大学との包括連携協定に基づく具体的な取り組みについて検討し、2025年度中に実施可能なものについては、取り組みを開始する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-5 聖園女学院高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
	(1)-3　財政改善に向けた定員充足に関する方策	(1)-3-1　高校入試 聖園女学院にふさわしい生徒を迎え入れる機会を広げるため、新たに2024年度入試として高校入試を開始した。これまで中高一貫教育を掲げてきたが、内部進学生に加え、公立中学校等で学んできた生徒も受け入れ、生徒が互いに刺激し合い成長できることを目指す。 当面はさらなる志願者を確保できるよう入試広報活動の強化に努めていくが、中学入試の定員充足状況に合わせ、2026年度に高校入試のあり方を見直す。また、2026年度の検討内容を踏まえ、2027年度以降に必要な対策を講じる。	―	→ 中学の定員充足状況に応じて、高校入試の募集枠や入試内容、優遇措置などを見直す。	→ 2026年度の検討内容を踏まえ、必要な対策を講じる。	→	→	―			
	(2)-1　グラデュエーション・ポリシーの実現	(2)-1-1　グラデュエーション・ポリシーの実現 ミッションスクールとしての価値観教育を基に、国や文化を越えて互いに理解し合い、世界平和と国際社会に貢献できるように、優れた知性、堅実な実行力、無償の愛をもつ女性を育てることを目的とし、豊かな感性と人間力を高める教育の実践と校訓の体現によって生徒を育てる。 2025年度にワーキンググループを設置しグラデュエーション・ポリシーの具現化、具体化を検討する。 2026年度以降、ワーキンググループでの検討結果について、ステークホルダーへの周知を図る。	→ ワーキンググループを設置しグラデュエーション・ポリシーの具現化、具体化を検討する。	ワーキンググループでの検討結果について、ステークホルダーへの周知を図る。	→	→	→	グラデュエーション・ポリシーの実現に向けて、2025年度内にワーキンググループを設置しグラデュエーション・ポリシーの具現化、具体化を検討する。			
		(2)-2-1　基礎学力の向上 2025年度以降も習熟度別授業や分級授業を継続することにより、生徒の理解を深める。また、放課後自習支援による大学生メンターとの学びの環境を整えることで、自立した学習態度を育み基礎学力の向上を目指す。 長期休業期間の補習・講習に加え、AI教材を活用し、個人の進度に合わせた学習の取り組みを実施する。AI教材については、利用状況を確認し2026～2027年度に内容の見直しを行う。	→ 以下の取り組みを継続実施 ・習熟度別授業・分級授業 ・長期休業期間の補習・講習 ・AI教材活用 ・放課後自習支援	→ AI教材の内容の見直しを行う。	→	→	→	・2025年度中学数学(代数分野)において習熟度別少人数授業を中1～中3までの三学年で実施する。 ・長期休業期間の補習・講習は、教員指導の他、連携校や企業とのつながりを活用し様々な講座を設定する。 ・AI教材については、利用状況を確認し利用率向上のための方策を検討する。 ・2025年度も放課後自習支援を継続し、生徒の学習環境を整える。			
		(2)-2-2　総合的な学習・探究 総合的な学習・探究を通して資料を活用しまとめる力を育み、地域社会との関わりから新たな気づきを得るための活動を推進する。多くの経験や学びを得るために、2024年度より外部企業と連携し、学びの場を校外へ広げ大胆な教育活動を展開している。2025年度以降も地域施設との連携、外部企業との連携を通して、生徒の自立を促す活動を実施する。2027年度には外部企業との連携を活用し、探究講座やプログラミング講座などを実施する。実体験を通して得た発見や発想を社会のために活用し、未来を切り拓く女性の育成を目標とする。 中高現地研修については、2026年度より平和学習と探究学習をテーマに、聖園女学院に相応しい行程の変更を行う。	→ 地域施設との連携、外部企業との連携を通して、生徒の自立を促す活動を実施する。	→ 探究学習としての中高現地研修の改善を図る。 中学現地研修を長崎3泊4日へ、高校現地研修を沖縄3泊4日へ変更する。	→ 外部企業との連携を活用し、探究講座やプログラミング講座などを実施する。	→	→	地域施設との連携、外部企業との連携を通して、生徒の自立を促す活動を実施する。 探究学習の成果を外部で発表したいと希望する高校生には、情報の提供と発表までのサポートを行う。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-5 聖園女学院高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(2)教育・研究	(2)-2　カリキュラム・ポリシーの実現	(2)-2-3-1　海外研修・留学 中学1年次からMEA(Misono English Academy)で校内留学を体験し、海外で学習したいという意欲を育む。中学3年次ニュージーランド中期留学は中級者向けに、高１カナダ研修は初級者にも対応できるプログラムとして企画・運営している。さらに長期で学習したい生徒には高校1年次から１年留学を勧め、2025～2026年度にはより留学先として選ばれる場所を検討し、2027年度以降に実施・検証を行う。海外プログラムを継続的に広報し、2024年度より参加する生徒の人数を増やす。	1年留学先を複数検討する。		実施・検証・ 海外プログラムの継続的広報			2024年度もニュージーランド1年留学参加の申し込みはなかった。留学期間が高１の1月～高２の12月なので、高２の現地研修に行けなくなるのが原因の一つと考えられる。カナダ研修やダブルディプロマシステムでお世話になっているカナダのオンタリオ州で１年留学を実施できないか、検討をしていく。			
		(2)-2-3-2　"Global Friends" 本校生徒たちが留学生と対面し、コミュニケーションを取ることで多様な文化・価値観に触れ、相手を尊重し協力しようとする心を育むことを目的とした “Global Friends”を発展させ、生徒の国際性を涵養する。2025年度までに対面での方法を検討し、Zoomでの交流に加えて、留学生と直接対面できる機会も継続させる。	対面の方法を検討する。	"Global Friends"を継続実施する。				2024年度はGlobal Friends in Misonoを、南山大学国際教養学部の北村先生をお招きして、言葉の通じない環境でのコミュニケーションについてご講義をしていただいた。また、3月にはin Nanzanとして外国人留学生と対面しコミュニケーションを取るアクティビティに加え、留学生が日本語を学んでいる授業に参加し、どのように日本語を学んでいるか勉強する機会をいただいた。2025年も対面での活動を意識し、言葉の壁を乗り越えて自ら積極的にコミュニケーションを取れる機会を検討する。			
		(2)-2-3-3　ダブルディプロマシステム 日本に居ながら海外の授業を受けることができ、カナダと日本の高校卒業資格をダブルで取得できるシステムを促進させる。Ontario Virtual Schoolと連携し、ダブルディプロマシステムの説明会や体験会を企画していくとともに、奨学金を周知し広報していく。2027年度にはダブルディプロマ取得者を輩出し、2028年度以降は体験談を活かした継続的広報を行う。	ダブルディプロマシステムの継続的広報		ダブルディプロマ取得者を輩出体験談の取材	ダブルディプロマ取得者の体験談を活用した継続的広報		2025年度は4月に説明会を開催し、ダブルディプロマシステムの説明とデモレッスンを対面で行うとともに、奨学金を周知し広報していく。また秋以降も説明会を検討していく。			
		(2)-2-4　キャリア教育 現在行われている6か年の進路探究の取り組みを2025年度に整理し、2026年度以降、生徒が自己と社会のつながりを実感し、一人ひとりが望ましい進路選択ができるよう支援体制を整備していく。2027年度以降は、行われる進路探究の教育的効果について、生徒のフィードバックをもとに検証していく。 また、2030年頃に予定されている指導要領改訂に向け、2028年度より情報収集を行い、必要な進路支援体制を整えるための基礎とする。	６か年進路探究の実施内容を整理する。	生徒の実態に応じた６か年進路探究指導計画を整備する。	６か年進路探究について，生徒からのフィードバックを通じて効果を検証する。	学習指導要領の改訂に向け情報収集を行う。		現在行われている６か年進路探究の実施内容を整理し、生徒が自己と社会のつながりを実感し、一人ひとりが望ましい進路選択ができるような支援となっているかを検証する。			
	(2)-3　アドミッション・ポリシーの実現	(2)-3-1　中学入試（教科型一般入試） 自分を鍛え、自己の確立を目指す生徒を受け入れるため、小学校のうちから学習習慣をしっかりと身に着けた志願者を評価できるよう、今後も教科型一般入試を中学入試の中心に据えていく。 その中で志願者数を確保することはもとより学力も担保されるよう、2025年度と2028年度には入試日程や方式について検討する。	入試種別ごとに入学生の成績を追跡し、セレクト1科・セレクト2科・国算ハーフの継続について検討する。	首都圏の入試動向を注視する。		入試種別ごとに入学生の成績を追跡し、セレクト1科・セレクト2科・国算ハーフの継続について検討する。	首都圏の入試動向を注視する。	志願者の確保はもとより学力も担保されるよう、2期にわたり入試日程や方式について検討する。2025年度は1期目の初年度として、入試種別ごとに入学生の成績を追跡し、セレクト1科・セレクト2科・国算ハーフの継続について検討する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-5 聖園女学院高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
		(2)-3-2　中学入試（帰国生入試・特色型入試） 帰国生入試と特色型入試（特待適性検査型入試・英語チャレンジ入試）の認知度を高め、豊かな人間性を有する国際人を目指す生徒を積極的に受け入れていく。2026年度と2029年度には特待適性検査型入試の定員を増やすことについて検討する。	帰国生入試や特色型入試に特化した広報活動を引き続き行う。	特待適性検査型入試の定員を10名から15名にすることを検討する。	26年度の検討の結果、必要があると認められた場合は、28年度入試の定員を変更する。	帰国生入試や特色型入試に特化した広報活動を行う。	特待適性検査型入試の定員を15名から20名にすることを検討する。	豊かな人間性を有する国際人を目指す生徒を積極的に受け入れていくため、帰国生入試や特色型入試に特化した広報活動を引き続き行う。			
(3)施設・設備	(3)-1　「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新	(3)-1-1　災害時の避難所としてのマリアホール 災害時の地域避難所として指定されているマリアホールのエレベーターの整備を2025年度に実施する。	エレベーター整備					災害時の地域避難所として指定されているマリアホールのエレベーターの整備を実施する。			
		(3)-1-2　計画的な施設・設備の更新 聖園女学院施設設備拡充引当特定資産を活用し、「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新を行う。 2025年度にガイドラインに基づいた更新計画を立案し、検討結果を踏まえ、2026年度に2027年度以降の事業計画に関して予算化し、2027年度以降に実施する。	建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する。	検討結果を踏まえ、2027年度以降の事業計画に関して予算化する。	事業計画を実施する。			施設設備拡充引当特定資産を活用し、建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する			
		(3)-1-3　生徒が過ごしやすい環境整備 生徒が過ごしやすい環境整備について検討を進める。必要に応じて聖園女学院施設設備拡充引当特定資産を活用したり、財政的な裏付けについても検討する。 2025年度に環境整備について検討する会議体を設置し、検討結果を踏まえ、2026年度に事業計画に関して予算化し、2027年度以降に実施する。	環境整備について検討する会議体を設置する。	検討結果を踏まえ、2027年度以降の事業計画に関して予算化する。	事業計画を実施する。			環境整備について検討する会議体を設置し、生徒が過ごしやすい環境整備について検討を進める。			
(4)社会・地域貢献	(4)-1　社会貢献	(4)-1-1　ボランティア活動 社会福祉施設「聖園子供の家」でのボランティア活動、各種支援のための募金活動を継続して実施する。聖園祭・クリスマス行事でのチャリティーの純益金をこれまで同様に社会福祉活動、国際協力援助のために寄付する。 2023年度よりスタートしたWARM HEARTS COFFEE CLUBの活動は、NPO法人せいぼと連携し、国際協力援助について、カトリック的SDGs探究として取り組む。	「聖園子供の家」ボランティア・聖園祭、クリスマス行事でのチャリティー・WARM HEARTS COFFEE CLUBの活動					「聖園子供の家」ボランティア活動を実施する。WARM HEARTS COFEE CLUBの活動は、カトリック的SDGs探究として、国際協力援助に取り組む。聖園祭、クリスマス行事でのチャリティーの純益金を社会福祉活動、国際協力援助のために寄附する。			
	(4)-2　地域貢献	(4)-2-1　聖園女学院の豊かな自然環境を生かした取り組み 本校の豊かな自然環境を生かした取り組みとして、2024年度より「MISONO竹林プロジェクト」をスタートした。校外との連携（金子牧場竹炭くらぶ・清泉女子大学地球市民学科 安斎徹教授ゼミ）により、創造的な体験的探究活動を目指す。製品化された物は、聖園祭で販売する。	・野鳥観察の再開 ・『竹炭』の探究とブランディング 製品化したものを聖園祭で販売する。 ・竹とSDGｓへの取り組み。					・カメラ付巣箱を設置し、野鳥観察を再開する。 ・自然環境教育の一環として、創造的な体験的探究活動に取り組む。『竹炭』の探究とブランディングに取り組み、製品化された竹炭は、聖園祭で販売する。			
(5)財政計画	(5)-1　学納金改定	(5)-1-1　「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、定員充足率や入試動向を考慮しつつ必要な時期に学納金改定を実施する。 2024年度に2026年度からの学納金改定（第1期、第2期）について理事会で審議する。 その後、2027年度には2029年度からの学納金改定（第2期）の理事会手続きを実施する。	2024年度に2026年度からの学納金改定（第1期、第2期）を理事会決定する。	学納金改定（第1期、月額3千円増額）を実施する。	2029年度からの学納金改定（第2期）の理事会手続きを実施する。	―	学納金改定（第2期、月額3千円増額）を実施する。	「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、2026年度からの学納金改定（第1期、第2期）について理事会決定する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-5 聖園女学院高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
	(5)-2　教育環境整備を目的とした寄附金のさらなる獲得	(5)-2-1　寄附金 学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、必要な対応策を検討・実施する。あわせて2026年度に本校創立80周年を迎えることから2026年度から2029年度にかけて「創立80周年記念募金」を実施するために必要な手続きを2025年度に進める。	→ 「創立80周年記念募金」を実施するために必要な手続きを開始する。	→ 「創立80周年記念募金」の募集を開始する。	→	→	→ 「創立80周年記念募金」の募集を終了する。	学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、「創立80周年記念募金」を実施するために必要な手続きを開始する。			
(6)組織運営と人材育成	(6)-1　組織運営	(6)-1-1　計画的な採用活動 中・高の定員充足に向けての入試改革と広報活動を進める中で、教員の年齢構成及び専任教員数の適正化に努める。 2025年度に数学科で1名を期限付講師から専任に切り替えて採用する。また社会科専任枠を2029年度まで時限的に転用し英語外国人期限付講師を採用し、現職2名の外国人教員の定年退職、再雇用後の任期満了に備える。 2026年度には、中学と高校入試の実績を踏まえ、1名ないし2名の期限付講師募集を専任募集に切り替える。 前年度採用の外国人教員については、勤務状況を見ながら、必要に応じて期限付講師募集を専任募集に切り替えを検討する。 2029年度にはクラス数、生徒数の状況を見て、次期中期計画に向けて、専任の充足状況を検証する。	→ 数学科で1名を期限付講師から専任に切り替えて採用する。 → 社会科専任枠を2029年度まで時限的に転用し英語外国人教員を採用し、現職2名の外国人教員の定年退職、再雇用後の任期満了に備える。	→ 中学と高校入試の実績を踏まえ、1名ないし2名を期限付講師募集から専任募集に切り替える。 → 前年度採用の外国人教員の勤務状況を見ながら、必要に応じて期限付講師募集を専任募集に切り替えを検討する。			→ クラス数、生徒数の状況を見て、次期中期計画に向けて、専任の充足状況を検証する。	数学科では、2023年度の中学1年から代数分野で習熟度別受授業を開始しており、年次進行で2025年度には中学3年まで拡充となる。また2024年度に3クラス設定となった中学1年は年次進行で中学2年で3クラス設定となる。これらにより一層の安定的な授業実施を期す必要がある。そのため1名を期限付講師から専任に切り替えて採用する。 本校の特徴的な英語・国際教育の継続、発展のためと、現職2名の外国人教員の定年退職、再雇用後の任期満了に備えるために、先行的に英語外国人教員を採用する。採用に当たっては社会科専任枠を2029年度まで時限的に転用し対応する。			
	(6)-2　人材育成	(6)-2-1　職員研修の継続実施 防災、個人情報、ハラスメントなど、人材育成上、その時期に研修が必要なテーマについて検討し、定期的に職員研修を実施する。 今後もテーマに応じ学園関係者を講師として派遣してもらえるように相談するとともに、神奈川私学中高協会、コアネット教育総合研究所の研修を活用する。	→ 人材育成上、その時期に研修が必要なテーマについて検討し、定期的に職員研修を実施する。	→	→	→	→	例年8月末に設定している教職員研修日に、個人情報取扱、ハラスメント、防災（救命救急）のいずれか一つないし二つの研修を実施する。講師とテーマの検討に当たっては学園総合企画室に相談する。			

*1) 評価欄は、〇（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため〇（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-6 南山大学附属小学校》

南山学園中期計画				マイルストーン					2025年度			
大項目	中項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(1)学校としての戦略	(1)-1 南山学園が掲げる4つの教育理念の具体化	(1)-1-1 ・教育課程特例校としてカリキュラム改善	(1)-1-1-1 特例校申請により3、4年生における外国語活動の時数を確保し、また、5、6年生において探究的な活動をとおして言語活動の充実を図る。	教育課程特例校開始１年目 成果と課題の検討	前年の成果と課題に基づく改善	→	→	→	4月に特別の教育課程の編成の方針等をWebページで公表する。3月に実施状況を自己評価し、その結果公表の準備をする。 教育課程特例校としての特別の教育課程をWebページやパンフレットへ掲載し、学校説明会での説明を行う。			
		(1)-1-2 ・宿泊学習を核とした特色ある教育活動	(1)-1-2-1 宿泊学習検討委員会を中心として、宿泊学習及び事前、事後指導の内容を南山小の特色といえるものにする。	検討委員会による提案の検討と実施	→	→	→	→	月に1回程度、検討委員会を開催する。9月に宿泊学習計画案を職員会議で提案する。1月に複数の旅行代理店に見積書を依頼する。			
		(1)-1-3 ・広報の工夫	(1)-1-3-1 学校説明会、授業見学会、パンフレット、Webサイトの活用等において南山小の特色を広く伝える工夫をする。	Webページ、学校紹介動画リニューアル	入試進路部による提案の検討と実施	→	→	→	Webページを刷新することで、特色がより伝わるよう見やすくしていく。学校説明会では、具体的な児童の姿を紹介していくことでよりよい発信を行っていく。			
		(1)-1-4 ・入試の改善	(1)-1-4-1 入試プロジェクトチームを中心に、受験者にとって負担が小さく、かつ、アドミッションポリシーに合った児童を受け入れるための入試の改善を図る。	プロジェクトチームの提案の検討と実施 考査試験・面接試験の日程変更	→	→	→	→	プロジェクトチームを中心としつつ、全職員が一丸となって取り組む入試を実現していく。前年度の振り返りを分析し、受験者にとっても教職員にとってもよりよい考査試験、面接試験となるように改善を図り続けていく。			
(2)教育・研究	(2)-1 南山学園が掲げる4 つの教育理念の具体化	(2)-1-1 ・宗教的な体験活動の充実	(2)-1-1-1 静修、クリスマス会、校外学習や宿泊学習におけるミサ（または、お祈りの会）を改善し、よりよい体験とする。	宗教科の提案の検討と実施	→	→	→	→	行事等における宗教的活動の重点について宗教科が提案する。活動後、児童にとってどんな意味をもつ体験となったか検討する。			
		(2)-1-2 ・「がんばりタイム」の改善	(2)-1-2-1 「がんばりタイム」の検討委員会を設け、目的や取り組み、評価の在り方を見直す。	研究・研修部による検討と資料収集	→	→	→	→	研究・研修部で「がんばりタイム」の改善点についてリストアップし、対応策について検討するとともに、ソフトや環境整備の資料を収集する。			
		(2)-1-3 ・学校間交流、海外研修の継続	(2)-1-3-1 台湾聖心小学校との相互交流を継続するとともに、オーストラリアの小学校とより深い交流ができるようにする。	オーストラリアのSt. Brigid's校を訪問 台湾聖心小学校を訪問	オーストラリアのＯＬＡ校を訪問 台湾聖心小学校の児童受け入れ	オーストラリアのSt. Brigid's校を訪問 台湾聖心小学校を訪問	オーストラリアのＯＬＡ校を訪問 台湾聖心小学校の児童受け入れ	オーストラリアのSt. Brigid's校を訪問 台湾聖心小学校を訪問	夏休みに6年生の海外研修を実施する。St. Brigid's校と交流する。 春休みに5年生の学校間交流を実施する。今年度は台湾を訪問し、台湾聖心小学校と交流する。			
		(2)-1-4 ・「真教育」研究会の実施	(2)-1-4-1 2019年度以来の「真教育」研究会を再開し、研究実践を進める。	「真教育」研究会開催（2月）	「真教育」研究会への準備（1年目）	「真教育」研究会への準備（2年目）	「真教育」研究会開催（予定）	「真教育」研究会への準備（1年目）	2月に「真教育」研究会を実施する。今年度は教育関係者のみを対象とし、複数の教科において研究発表を行う。			
(3)施設・設備	(3)-1 南山学園建物施設設備のライフサイクルに基づく施設・設備の整備	(3)-1-1 ・教室のプロジェクター設置	(3)-1-1-1 ICTを活用した授業を効果的に行うために、1～6年生の全教室に順次プロジェクターを設置する。	6、5年生教室に設置	4、3年生教室に設置	2、1年生教室に設置			教室に設置するプロジェクターの使用目的と導入機器について検討する。			
		(3)-1-2 ・グラウンドのメンテナンス	(3)-1-2-1 2023年に全面張替えした人工芝を維持するために計画的にメンテナンスをするとともに、鉄棒や遊具の安全点検や補修を定期的に行う。	年次計画に沿って整備・修繕	→	→	→	→	人工芝については、適切なメンテナンスを行うことで良い状態を長く維持できるようにする。職員による月に１回の安全点検と業者による定期点検を併用することで、児童の活動場所の安全を保つようにする。			
		(3)-1-3 ・特別教室の活用	(3)-1-3-1 ＰＣ室、児童会室、学習室、語学教室の活用の仕方を見直す。	PC室､児童会室の見直しを実施	→	学習室、語学教室の見直しを実施	→	→	PC室、児童会室の新たな活用の仕方を考え、再整備をしていく。その後、学習室、語学教室の有効な活用方法を考え、整備していく。			
(4)社会・地域貢献	(4)-1 地域との連携や行事への参加	(4)-1-1 ・地域清掃	(4)-1-1-1 いりなか商店街発展会と連携した地域清掃を継続する。	11月末頃 3～6年生 (1､2年生は校内)	→	→	→	→	保護者会わかみどりやいりなか商店街発展会とも連携し、１・２年生は校内、３～6年生は地域（学校周り）の清掃活動に取り組むことで、地域への貢献を続けていく。			
		(4)-1-2 ・聖歌隊、アフタースクール講座	(4)-1-2-1 聖歌隊やアフタースクール講座が地域の行事で発表することや、病院や老人ホームにおける聖歌隊の歌唱奉仕を継続する。	聖歌隊、アフタースクール講座の参加(希望)	→	→	→	→	地域の行事への参加や対外試合を計画し、実施する。 野球の講座を新設する。			
		(4)-1-3 ・隼人池公園の花壇	(4)-1-3-1 隼人池公園の花壇の花植えや管理を継続し、昭和区隼人池公園特定愛護会との連携も図っていく。	有志による管理 6月6年生、10月5年生各有志による植え	→	→	→	→	隼人池公園の花壇の花植えは、保護者にもご協力いただき、高学年有志の毎年の行事として定着してきている。今後も隼人池公園特定愛護会の方との連携も取りながら続けていく。			
(5)財政計画	(5)-1 「南山学園財政にかかる中・長期目標」の実現	(5)-1-1 ・授業料	(5)-1-1-1 年次計画に従って授業料を上げていく。	新1年生から月額2,000円の値上げ			新１年生から月額2,000円の値上げ		新１年生授業料を2,000円増に改定することで、2,160千円収入増(入学定員ベース)となり、教育環境整備・改善に使用する。			
(6)組織運営と人材育成	(6)-1 ５つの主要部会の再編と少経験者を中心とした研修の充実	(6)-1-1 ・校務分掌における各部の役割の見直しや再編	(6)-1-1-1 教務部、研究・研修部、生活指導部、入試・進路部、家庭連携部の役割を見直し、必要に応じて再編する。	研究・研修部の見直し	家庭連携部を中心とした見直し	各部再編後の役割の調整	→	→	各部の見直しを図っていく。まずは、研究・研修部、次に家庭連携部など、部の内容や役割を見直し、改編を図っていく。			
		(6)-1-2 ・少経験者研修	(6)-1-2-1 新規採用職員の増加に伴い、少経験者を中心として南山小の基盤となる指導の継承と充実を図る。	1、2年目研修	1～3年目研修	1～3年目＋希望者研修	1～3年目、5年目＋希望者研修	→	研修計画に沿って、南山小で学ぶべきことの研修を行う。また、特に少経験者には、担当者をつけてきめ細やかな指導を行っていく。			

*1）評価欄は、〇（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため〇（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-7 聖園女学院附属聖園幼稚園》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(1)幼稚園としての戦略	(1)-1　教育モットーの具現化	(1)-1-1　教育モットーの具現化 南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」を教育活動の中で具現化できるよう、引き続き日々の祈りの中で園児に一人ひとりがかけがえのない存在であることや命の大切さを改めて伝えていく。2026年度以降は絵本や紙芝居などを保育に積極的に取り入れ具現化した提示を行い、「人間の尊厳」を意識して保育を行っていく。	日々の祈りを通して、命の大切さを伝える。	紙芝居などの教材を使用し具現化した提示を行う。	取り組みを継続する。			日々の祈りを通して神さまの存在を身近に感じ、手を合わせて言葉にすることでひとり一人がかけがえのない存在であることや命の大切さを伝える。 毎日天気や季節の恵みへの感謝、社会で起きている出来事を言葉にして祈ることで興味を持ち、また病欠等で欠席している友だちの回復を祈ることで思いやりの心を育てる。			
	(1)-2　単位間連携の推進	(1)-2-1　聖園マリア幼稚園との連携 聖園マリア幼稚園と四季を感じられる活動を通して交流を持ち、姉妹園ならではの体験を行う。2025年度には年長児のプール交流を行い、2026年は年中、年少組の交流を実施し、2027年度以降は必要に応じて交流内容について検討を行う。	年長組のプール交流を実施する。	年中・年少組の交流を実施する。体操や歌の披露、外遊びなどを行う。	取り組みを継続実施する。 必要に応じて交流内容について検討を行う。			2024年度に実施予定だった年長組プール交流は、雨天のため実施ができなかったため2025年度は事前打ち合わせを行い、候補日を複数挙げたり雨天でも交流できる計画をし交流を実施する。			
		(1)-2-2　聖園女学院高中校との連携 聖園女学院と連携を取りながら女学院生徒と交流を行う。2025年度は家庭科授業の保育実習の取り組みを継続し、毎年行っている聖園女学院グラウンドでの運動会を継続して行う。2026年度は聖園女学院での春の園外保育を復活させ継続する。2027年度以降は女学院の部活動発表や本園で実施するちびっこ祭りへの参加などを検討し、実現が可能なものから実施していく。	家庭科授業の保育実習を実施する。	以前行っていた聖園女学院での春の園外保育を復活させ継続する。	部活動発表等を実施する。			聖園女学院との連携を取りながら、家庭科授業の保育実習を通して、女学院生徒と園児の交流を行う。運動会や聖園祭など女学院へ訪れる機会を増やす。また、本園においても部活動の発表や交流など実施に向けて検討する。			
(2)教育・研究	(2)-1　聖園幼稚園の特色ある教育プログラム	(2)-1-1　異年齢交流 コロナ禍では控えていた異年齢交流を再開し、年長児が年少児の世話をしたり、交流の機会を増やしていく。2025年度は年長児が年少児の芋ほりの手助けを行い、2026年度は年中児が満3歳児クラスやプレ保育に訪れる子どもたちと交流を行う。交流を通して親しみを持ちながら他者を思う心を育てる。	芋ほりで年長児が年少児の手助けを行う。	年中児と満3歳児の交流を実施する。プレ保育等で試作したプレゼントを贈る等の交流を行う。	取り組みを継続する。			2024年度に引き続き、保育の活動の中で年長組と年少組が交流し、芋ほりで年長児が年少児の手助けを行ったり、年中組は、プレ保育で園を訪れた未就園児に作品や歌を贈るなど交流を行う。			
	(2)-2　預かり保育の充実	(2)-2-1　預かり保育の充実 園児が楽しい時間を過ごせるよう保育内容を充実させ、保護者に安心して預けていただけるよう努めていく。2025年度に預かり保育時間や保育内容を検討する。検討を踏まえ2026年度以降、必要に応じて対応策を実施する。	預かり保育時間や保育内容を検討する。	必要に応じて対応策を実施する。				預かり保育時間や保育内容を検討する。 車で迎えに来ることができるよう、安全に駐車場を使用できる時間を検討する。			
	(2)-3　満3歳児クラスの体制強化	(2)-3-1　満3歳児クラスの体制強化 満３歳児クラスを毎年５月に開始し、少人数から始まり園児が増えていくクラスならではの手厚い保育を行い関わりを持つ。2025年度にクラス体制の在り方を検討し、2026年度は募集時期や募集方法を検討していく。	クラス体制の在り方を検討する。	募集時期や募集方法を検討する。	必要に応じて対応策を実施する。			満3歳児クラスの園児数を増やし、子どもたちが楽しめる充実した保育やクラス体制の在り方を検討する。			
(3)施設・設備	(3)-1　スクールバス運行事業の見直し	(3)-1-1　スクールバス運行事業の見直し 2025年度に安全で保護者のニーズに合ったバスコースを検討し、新入園児獲得に向けて新たなコースを開拓する。2027年度にスクールバスのリース契約終了に合わせて、小型バスを導入し園敷地内に乗り入れることを検討する。その後もバスコースの安全性と利便性を重視しながら継続して見直しを行う。	安全で保護者のニーズに合ったバスコースを検討する。		リース契約終了に合わせて小型バスを導入し園敷地内に乗り入れることを検討する。	継続的な見直しを行う。		安全で保護者のニーズに合ったバスコースを検討する。保護者の希望に寄り添い、できる範囲で自宅に近い、利用しやすい場所にバス停を設置していく。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-7 聖園女学院附属聖園幼稚園》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
	(3)-2　「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新	(3)-2-1　ガイドラインに基づく施設・設備の更新 聖園女学院施設設備拡充引当特定資産を活用し、「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新を行う。 2025年度にガイドラインに基づいた更新計画を立案し、検討結果を踏まえ、2026年度に2027年度以降の事業計画に関して予算化し、2027年度以降に実施する。	建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する。	検討結果を踏まえ、2027年度以降の事業計画に関して予算化する。	事業計画を実施する。			施設設備拡充引当特定資産を活用し、建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する。			
(4)社会・地域貢献	(4)-1　社会貢献	(4)-1-1　献金 クリスマス献金を通じて困っている子どもたちがいることを知り、献金を通して人の役に立てることや命の大切さを伝える。2025年度以降取り組みを継続する。	クリスマス献金の取り組みを継続する。					世界中で困っている子どもたちのために、クリスマス献金の取り組みを継続する。			
	(4)-2　地域貢献	(4)-2-1　園庭開放 2025年度以降も園庭開放を行うことでカトリック園に触れ、幼稚園の特色を感じていただき園への理解を深めていく。2026年度以降は災害時に協力できるような関係性を築くために、イベントの継続実施や施設内の設備や備品等の見直しを行う。	イベントを行い園に足を運べる機会を増やし、園への親しみを持ってもらう。	施設内の設備や備品等の見直しを行う。				園庭開放を行うことで幼稚園の特色を感じてもらい、イベントを通して園へ興味や親しみを持ってもらう。			
(5)財政計画	(5)-1　教育環境整備を目的とした寄附金の募集	(5)-1-1　寄附金 学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、必要な対応策を検討・実施する。2025年度に「学園としての募金体制検討ワーキンググループ」の答申を受けて必要な手続きを開始する。 2026年度に寄附金募集を開始する。	「学園としての募金体制検討ワーキンググループ」の答申を受けて必要な手続きを開始する。	寄附金募集を開始する。				学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、「学園としての募金体制検討ワーキンググループ」の答申を受けて必要な手続きを開始する。			
	(5)-2　学納金改定	(5)-2-1　学納金改定 「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、定員充足率や入園動向を考慮しつつ、必要な時期に学納金改定を実施する。	定員充足率や入園動向を考慮しつつ、必要な時期に学納金改定を実施する。					「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、定員充足率や入園動向を考慮しつつ、必要な時期に学納金改定を実施する。			
(6)組織運営と人材育成	(6)-1　組織運営	(6)-1-1　組織運営 安定的な組織運営を行うために、教員の採用活動を計画的に行い保育へ全力を注げるようにする。2025年度は養成校とのつながりを積極的に作り、2026年度以降の教育実習生の受け入れ、教員採用に繋げていく。	養成校とのつながりを積極的に作っていく。	教育実習生を積極的に受け入れ、教員採用へ繋げていく。	取り組みを継続する。			採用実績のある養成校とのつながりを積極的に作り、情報交換を行いながら学生の傾向を学びながら実習の受け入れへ繋げていく。			
	(6)-2　人材育成	(6)-2-1　人材育成 職員の専門性を向上できるよう、園内外研修に積極的に参加する。2026年度以降は園内での共有に加え、必要に応じて夏休み等に聖園マリア幼稚園と交流の場を設け情報交換を行う。	園内外研修に積極的に参加する。	必要に応じて聖園マリア幼稚園と交流し情報交換を行う。				園外研修に積極的に参加し、職員間で振り返りや共有を行い保育に生かしていく。			

*1) 評価欄は、〇（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため〇（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-8 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(1)幼稚園としての戦略	(1)-1　教育モットーの具現化	(1)-1-1　南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」を教育活動の中で具現化できるよう、一人ひとりの個性を大切にし、思いや考えを尊重することで集団の中での存在意義を高められる保育を目指す。2025年度は保護者に向けこれまで幼稚園で取り組む内容を周知する。2026年度に園児向けの講話の時間を定期的に実施するようカリキュラムに織り込む。2027年度以降も継続する。	保護者に向けこれまで幼稚園で取り組む内容を周知する	園児向けの講話の時間を定期的に実施するようカリキュラムに織り込む	取り組みを継続する			保護者会総会等の機会を活用し、保護者に向けこれまで幼稚園で取り組んできた内容を周知する			
	(1)-2　単位間連携の推進	(1)-2-1　聖園幼稚園との連携 教員同士の関わりを通して南山学園の教育モットーの理解を深め合い教育内容を充実させることで質の高い幼児教育を目指すために2025年度に両園の教諭、園児交流を検討し計画する。2026年度に2025年度を振り返り内容を再検討する。2027年度以降は内容を充実させ実施する。	両園教諭、園児交流の計画案の作成	内容を再検討	計画を実施、恒例化する			保育時間や研修等を通じてより良い職場、保育活動に繋がるよう、両園教諭、園児交流の計画案を作成する			
		(1)-2-2　聖園女学院高中校との連携 現在取り組んでいる家庭課授業の参加を継続する。さらに将来保育関係への就職が選択肢の一つとなるよう2025年度に夏休みのボランティアを聖園女学院高中校に依頼する。2026年度応募状況により募集方法やボランティア内容を検討する。2027年度にボランティア内容を充実させ、2028年度以降も継続して実施する。	夏休みのボランティアを依頼	計画の実施 応募人数により内容を検討	内容を充実させ恒例化する			聖園女学院の協力を得て希望者の募集の仕方や活動期間等を検討し、夏休みのボランティアを依頼する			
	(1)-3　ICT化の推進	(1)-3-1 パソコンやタブレット端末を導入した環境整備を進め、教員業務の軽減、保護者の利便性向上を図るために2025年度にICT化について導入できる部分を検討する。2026年度に会議録、月案、週案等の記録管理方法見直し、NASの設置を検討する。2027年度にNASを設置し、2028年度にパソコンまたはタブレット端末の導入の必要性について検討し、検討結果を踏まえ必要に応じて2029年度に予算化を検討する。	ICTについて導入できる部分を検討する	会議録、月案、週案等の記録管理方法の検討	NASの設置	パソコンまたはタブレット端末の導入の必要性の検討	前年度の検討結果を踏まえ、必要に応じて予算化を検討	会議録や個人記録等の業務軽減、保護者の利便性向上を目指し、ICTについて導入できる部分を検討する			
(2)教育・研究	(2)-1　縦割り活動の充実	(2)-1-1　他学年の園児や教員と関わることで他クラスの様子を把握し、教員同士で話し合う場や相談できる環境づくりを継続する。2025年度に縦割りの教員同士で園児一人ひとりの成長を共有し興味関心を把握する会議の時間を設定する。2026年度に共有内容を行事に活かす。2027年度にWebページの更新頻度をあげ縦割り活動の様子を掲載し、2028年度に縦割り活動を保護者へのアピールポイントとして園児獲得に繋げ、2029年度も継続する。	縦割りの教員同士で園児の興味関心を把握する会議の時間を設定	共有内容を行事等に活かす	webページの更新頻度をあげ、縦割り活動の様子を掲載(行事以外の日常の様子)	縦割りの活動を具体化し保護者へのアピールポイントとし園児獲得に繋げる		行事以外の面でも縦割りの交流を持てるよう縦割りの教員同士で園児の興味関心を把握する会議の時間を設定する			
	(2)-2　プレ保育「ひよこらんど」の充実	(2)-2-1　これまで行ってきたプレ保育をさらに園児や保育者の様子を見たり幼稚園の体験場とする他に、子育てのヒントを提供できる場となるよう工夫し、2025年度にWeb受付フォームの整備、2026年度に広報活動を再検討することで募集活動を充実させる。2028年度以降は保護者同士が苦労や喜びを分かち合える場として集えるよう計画し定着させる。2029年度に保護者向けに講師を迎え保護者アンケートの悩みに応えられるよう講師を依頼する等内容の充実を図る。	Web受付フォームの整備	広報活動を再検討	保育時間中に設定		園外の講師を依頼する等内容の充実を図る	Webページを初めて見る方が読みやすいデザインを熟慮し、Web受付フォームの整備を図る			
	(2)-3　満3歳児クラスの体制強化	(2)-3-1　満3歳児のカリキュラムをたて、独立したクラスとして保育内容を発信していくために、2025年度に広報活動を検討する。2026年度に園児の増員に向け保育室の設定と教員の増員を検討し、2027年度に満3歳児の保育室を設定する。2028年度は園児数増員に合わせて1クラスに担任と非常勤を設置し2人体制での運営を実現させる。2029年度以降に途中入園に対応した安定したクラス運営を実現し、園児の確保に繋げる。	広報活動を検討	園児増員に向け保育室の設定と教員増員を検討	保育室の設定	独立したクラスとして担任、非常勤を定着させる	途中入園に対応した安定したクラス運営	満3歳児クラスを設定する幼稚園が増えていることを鑑み、独自のアピールポイントを含め広報活動を検討する			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-8 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(3)施設・設備	(3)-1　スクールバス運行事業	(3)-1-1　広範囲にわたりスクールバスを運行する中で長時間乗車する園児の負担や安全性を考慮しバスルートを整備する。2025年度にバス用携帯電話をスマートフォンに変更しGPS機能をつけ保護者が安心してバスの運行状況を把握できるようにする。2026年度には気温の上昇によるバス内の環境の変化を考慮し、窓ガラスに遮熱フィルムを貼り車内の熱中症対策に取り組む。2027年度は園児獲得のためにバスルートの見直し、広範囲の運行による乗車時間による園児への負担を考慮し、運転手の確保に向けて検討する。2028年度に神奈川県の幼児用シートベルト装備を進める取組みに対応できるように検討する。	バス用携帯電話をスマートフォンに変更。GPSをつけバス遅延時の保護者連絡に対応	スクールバスの窓ガラスに遮熱フィルムを貼り熱中症対策	園児獲得のためバスルートの見直し、運転手の確保に向けて検討	園児用シートベルト着用について検討		バス用携帯電話をスマートフォンに変更し、GPSによりバス遅延時の保護者連絡に対応できるようにする			
	(3)-2　通用門付近の整備	(3)-2-1　幼稚園敷地内に外部の車がUターンとして入ってくることがある。私有地であることを外部の車に知らせる必要性があるため、2025年度に外部の車の出入りがないよう安全面の整備を検討する。2026年度に3カ所ある通用門を歩き用、自家用車用、スクールバス用の出入口の表示やUターン禁止の表示を設置するなど改装工事も含め対策を検討する。2027年度に2026年度検討した内容を実施し安全性を高める。	外部の車の出入りがないよう安全面の整備検討	出入口の表示やUターン禁止の表示を設置するなど改装工事も含め対策を検討	2026年度検討した内容を実施			外部の車の出入りがないよう安全面の整備を検討する			
	(3)-3　「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新	(3)-3-1　計画的な施設・設備の更新 施設設備拡充引当特定資産を活用し、「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新を行う。	建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する	検討結果を踏まえ、2027年度以降の事業計画に関して予算化する	事業計画を実施する			施設設備拡充引当特定資産を活用し、建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する			
	(3)-4　照明のLED化	(3)-4-1　2026年度から2028年度にかけて、照明を順次LED化することで園児が快適に過ごせる環境を整える。		照明LED化を進めていく				―			
	(3)-5　熱中症対策	(3)-5－1　近年の気温上昇により外での活動が制限されつつある。園児が戸外で安全に伸び伸びと活動すべく熱中症を予防する設備の設置を検討する。2025年度に室内外で熱中症対策が必要な箇所を含め検討する。2026年度に改装工事等を含め予算をたて検討する。2027年度より順次対策に取りかかる。	室内外で熱中症対策の必要な個所を検討する	改装工事を含め予算をたてる	順次、対策に取りかかる			室内外で熱中症対策の必要な個所を検討する			
(4)社会・地域貢献	(4)-1　社会貢献	(4)-1-1　毎週金曜日に実施している「おにぎり献金」を継続し、幼児のうちから世界情勢に目を向け命の大切さや自分にできることを考える力を養える教育を目指す。2025年度に「おにぎり献金」の意義を見直し教員で共有した上で園児や保護者に改めて協力を求める。2026年度に日々の祈りの時間を通し社会情勢への関心を高められるよう園長による集話の時間を策定する。2027年度以降継続する。	おにぎり献金の意義を保育者や保護者に定着させる	日々の祈りの時間を通し社会情勢への関心を高められるよう資料の作成等に取り組む	園児が身近で起きている自然災害等の復興の祈りを献金に込め定着させる			習慣になっている「おにぎり献金」について、改めて保育者自身がおにぎり献金の意義を見直し、保護者に発信して定着させる			
	(4)-2　地域貢献	(4)-2-1　幼稚園園庭を解放し、未就園児や保護者に安全な環境の遊び場を提供する。2025年度により多くの方に来園していただけるよう宣伝方法や園庭開放の日程と時間帯を検討する。2026年度は園庭開放の回数を増やし多くの未就園児に来園していただく機会を増やす事で保育者や園児と一緒に遊び幼稚園の雰囲気を楽しめるよう工夫し、2027年度以降継続して実施する。	園庭開放のお知らせ方法の検討	宣伝方法や園庭開放の日程と時間の検討	園庭開放の回数を増やし定着させる			外掲示板の活用の他、未就園児の利用しやすさを熟慮し園庭開放のお知らせ方法を検討する			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-8 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(5)財政計画	(5)-1　教育環境整備を目的とした寄附金の募集	(5)-1-1　寄附金 学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、必要な対応策を検討・実施する。	→ 「学園としての募金体制検討ワーキンググループ」の答申を受けて必要な手続きを開始	→ 寄附金募集を開始	→	→	→	学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、「学園としての募金体制検討ワーキンググループ」の答申を受けて必要な手続きを開始する			
	(5)-2　学納金改定	(5)-2-1 「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、定員充足率や入園動向を考慮しつつ必要な時期に学納金改定を実施する。	→ 定員充足率や入園動向を考慮しつつ必要な時期に学納金改定を実施	→	→	→	→	「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、定員充足率や入園動向を考慮しつつ必要な時期に学納金改定を実施するよう検討を行う			
(6)組織運営と人材育成	(6)-1　組織運営	(6)-1-1　人員体制の強化 園児の獲得に向けて支援の必要な園児等の業務負担の軽減を図る。2025年度に人員体制について検討する。2026年度には安定した組織運営を行うために園長、副園長が教職員の声を聞き、職場の環境改善に取り組むよう計画的に面談を行う。2027年度以降も現在の離職率を維持しつつ、教員採用に向け就職フェアに参加する等、就職状況を常に把握し対応できるようにする。 積極的に教育実習生を受け入れ、保育現場の体験により保育者としての期待と意欲を高める指導を心がけ、採用に繋げる。	→ 人員体制について検討	→ 教員との定期的な面談を実施	→ 面談を定着させる	→	→	人員体制について検討し、常時教員募集を行う			
		(6)-1-2　専任教員と非常勤教員の関係性強化 専任教員と非常勤教員の関係性を深め役割を分担することで支援の必要な園児に対して丁寧な対応が可能となる。そのために2025年度に定期的な園内研修・職員会議を実施する。2026年度に議題をあげ意見交換や情報共有の場を設け、2027年度以降も定期的に実施する。	→ 定期的な園内研修・職員会議を実施	→ 議題をあげ、意見交換や情報共有の場を定着させる	→ 定期的に実施	→	→	定期的な園内研修・職員会議を実施し、教員同士の交流や保育の質の向上を図る			
	(6)-2　人材育成	(6)-2-1　多分野にわたる園内外研修に積極的に参加し、職員の専門性を向上させられるよう2025年度の研修費を見直し、研修報告の場を設け教員全体で共有する。2026年度以降も継続して実施する。	→ ・県や市の研修への積極的参加 ・教員は夏休み中に各分野の研修に参加 ・職員会議での研修で得た情報の共有	→ 継続して実施	→	→	→	各分野にわたり研修を受け、教員全体で情報を共有することで保育の質の向上を図る			

*1) 評価欄は、〇（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため〇（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-9 法人本部事務部門》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(1)法人本部事務部門としての戦略	(1)-1 南山学園が「人間の尊厳を尊重かつ推進する」人材の育成を継続し、更なる発展に資する。	(1)-1-1 長期ビジョン検討ワーキンググループを設置し、2027年度までに、長期ビジョン「Nanzan Vision 100」を策定・公表する。	→ ワーキンググループ設置・検討	→ ワーキンググループで検討	→ 長期ビジョン「Nanzan Vision 100」策定・公表			長期ビジョン検討ワーキンググループを設置する。当該ワーキンググループにおいて、学校法人を取り巻く外的・内的要因の分析、「人間の尊厳を尊重かつ推進する」人材の育成を継続し、更に発展させるための理想と現実を踏まえたギャップ分析を行う。			
	(1)-2 学園創立100周年（2032年）を、学園内外の多様なステークホルダーが、学園の歴史や教育事業の歩みを振り返り、未来の姿を共有することができる機会とする。	(1)-2-1 学園創立100周年記念事業検討ワーキンググループを中心に、創立100周年記念事業について検討する。	→ タウンホールミーティングを踏まえ、ワーキンググループを中心に創立100周年記念事業について検討	→ タウンホールミーティングを踏まえ、ワーキンググループを中心に創立100周年記念事業について検討	→ ワーキンググループを中心に創立100周年記念事業について検討	→ ワーキンググループで創立100周年記念事業について検討し、理事会へ提案する。		2023年度に設置された学園創立100周年記念事業検討ワーキンググループにおいて、2024年度ならびに2025年度に実施したタウンホールミーティングでの意見を再精査する。そのうえで、学園創立100周年記念事業のあり方を検討する。			
		(1)-2-2 長期ビジョン「Nanzan Vision 100」を策定するまでの期間、毎年度、タウンホールミーティングを実施し、そこで出された意見等を理事会等へフィードバックすることで、南山学園の存在意義や未来の姿を共有する。	→ タウンホールミーティングの実施。理事会等への報告	→ タウンホールミーティングの実施。理事会等への報告				2024年度同様、各単位校においてタウンホールミーティングを実施し、その内容を理事会ならびに学園各種委員会へ報告する。そのうえで、より自由な意見交換の機会とできるようタウンホールミーティングの実施方法の再検証と執行役員会への提案を行うとともに、早期実現が望まれる意見等については、学園創立100周年に先立ち具体策を検討する。			
(2)教育・研究	(2)-1 2023年4月1日付「理事長メッセージ」で示された南山学園が掲げる4つの教育理念ならびにキーフレーズを具体化する。	(2)-1-1 長期ビジョン検討ワーキンググループを設置し、2027年度までに、4つの教育理念ならびにキーフレーズを長期ビジョン「Nanzan Vision 100」に組み込み、具体化する。	→ ワーキンググループ設置・検討	→ ワーキンググループで検討	→ 長期ビジョン「Nanzan Vision 100」に組み込み、具体化する。			長期ビジョン検討ワーキンググループを設置する。当該ワーキンググループにおいて、理事長より示されたキーフレーズの共通認識を持つことができるよう、理事長との懇談機会を設ける。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-9 法人本部事務部門》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(3)施設・設備	(3)-1 カーボンニュートラルに向けた取り組み	(3)-1-1 2050年のカーボンニュートラルに向けて、「南山学園カーボンニュートラルロードマップ」を策定する。	→ 整備計画を検討	→ 整備計画を検討	→ 南山学園カーボンニュートラルロードマップの策定	→ 南山学園カーボンニュートラルロードマップの策定	→ 南山学園カーボンニュートラルロードマップに基づき実施	2050年のカーボンニュートラルに向けて、最新の省エネ・創エネ技術の情報収集を行う。南山学園中期計画に基づき、収集した情報を取りまとめ、整備計画を検討する。			
	(3)-2 災害に強い学校施設づくり	(3)-2-1 大規模な自然災害に備え、老朽化した設備の更新など災害に強い学校施設づくりに取り組む。	→ 整備計画を検討	→ 整備計画を策定	→ 整備計画に基づき実施	→ 整備計画に基づき実施	→ 整備計画に基づき実施	大規模な自然災害に備え、災害時のトイレ利用、エレベーター閉じ込め等の対応を確認する。また指定緊急避難場所である体育館に空調設備を設置する予定である。			
	(3)-3 修繕改修計画	(3)-3-1 老朽化設備の修繕改修工事を実施し、安全・快適に過ごせる施設設備環境を保持する。また「建物施設設備のライフサイクルについて」に基づく計画的な修繕の実施する。	→ 施設設備リスクの確認・実施	→ 施設設備リスクの確認・実施	→ 施設設備リスクの確認・実施	→ 施設設備リスクの確認・実施	→ 施設設備リスクの確認・実施	「建物施設設備のライフサイクルについて」に基づき、各施設の屋上防水工事、空調工事等を実施する。			
(4)社会・地域貢献	(4)-1 社会・地域貢献を更に推進する。	(4)-1-1 社会・地域貢献推進ワーキンググループを設置し、設置校が独自に行っている様々な活動を把握したうえで、更に推進することができるよう「社会・地域貢献ポリシー」を策定・公表する。	→ ワーキンググループの設置	→ ワーキンググループで設置校の活動の把握	→ ワーキンググループで「「社会・地域貢献ポリシー」の策定・公表			社会・地域貢献推進ワーキンググループを設置する。当該ワーキンググループにおいて、各単位校で行われている社会・地域貢献活動について情報を集約し、情報共有を行う。			
		(4)-1-2 社会・地域貢献推進ワーキンググループを中心に、支援・推進するための組織や人員体制について検討する。	→ ワーキンググループの設置	→ ワーキンググループで支援・推進組織・人員体制の検討	→ ワーキンググループで支援・推進組織・人員体制の提言			社会・地域貢献推進ワーキンググループにおいて、各単位校で行われている社会・地域貢献活動を支えている組織・人員体制について情報収集する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-9 法人本部事務部門》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(5)財政計画	(5)-1 「南山学園財政に係る中長期目標」の実現による財政基盤強化	(5)-1-1 収入の安定化・多様化と支出の最適化を図りつつ、中長期目標の実現を目指し、南山学園の財政基盤強化を図る。第II期目標については財政状況を踏まえて再検討する。 1) 第I期目標（2023-2027年度）の実現： 「基本金組入前当年度収支差額」の累積額および「内部留保資金増加額」の累積額を基準財務シミュレーションの当該額以上とする。 2) 第II期以降の展望<2022年度設定時点>： 事業活動収支においては、各単位において「基本金組入前当年度収支差額」を均衡以上とする。資金収支においては、来年度以降の減価償却累積額を学園全体で確保するだけの、内部留保資金増加を実現する。	→ 基準財務シミュレーションと決算後の財務シミュレーションとの乖離を検証する。 各経理単位と懇談し、問題点を洗い出す。		→ 第I期目標の実現を確認する。 第II期目標を検討し設定する。	→ 第II期目標の実現を確認する。		基準財務シミュレーションと2024年度決算後の財務シミュレーションを比較する資料を財務課で作成し、その乖離理由を各経理単位へ確認する。そのうえで7月実施の内部監査時を目途に各経理単位と懇談の機会を設けて問題点を洗い出し、10月開催予定の経理実務者研究会において経理単位間で問題点を共有することを第1ステップとする。			
	(5)-2 財務分析による財政改善への提言	(5)-2-1 法人本部は南山学園の財政状況について、財務比率等の経営判断指標を用いて多角的に分析・評価を行い、財政改善に必要な施策を随時検討の上、各経理単位へ提言する。学園全体の翌年度繰越収支差額のマイナス幅を減少させて財政改善を実現する。 [収入増加策]：学納金改定、外部資金の拡充、補助金獲得の拡充、施設設備の利用料徴収と利用料の改定、その他収入増加に繋がる施策の策定と実施 [支出の削減策]：人件費支出の最適化、予算規模の見直しによる経費の抑制 [その他]：財源の最適配分のための戦略的な予算編成過程の見直し、財務指標の目標値設定	→ 私学事業団が示す「経営判断指標」「自己診断チェックリスト」「損益分岐点」等の財務分析資料を作成し、毎年度各経理単位と懇談の機会を設ける。 学園全体の翌年度繰越収支差額のマイナス幅減少を確認する。 → 財務分析資料に基づき、財政改善に向けた施策を検討する。	→ 財務改善に向けた施策を提案し、実施する。	→ 財務改善に向けた施策を実施し、検証する。			2024年度決算後、経営判断指標および損益分岐点を作成する。その際、2023年度に財務課が作成し各経理単位へ提供済の自動判断ツールを活用する。分析資料は7月実施の内部監査または10月開催予定の経理実務者研究会で共有し、学園全体の翌年度繰越収支差額のマイナス幅減少を確認のうえ、財政改善に向けた意見交換をおこなう。			
	(5)-3 有価証券運用の取り組み	(5)-3-1 南山学園が定める資産運用方針に基づき、安定的な収入確保が見込める投資銘柄を精査・選定していくとともに、当該方針に定める有価証券の保有上限に近づきつつあるため、リスクを最小限に抑えながら、運用益獲得を目指す従来の方針は遵守しつつ、新たな取り組みについて検討し、提案・実施する。	→ 市場環境を監視し、運用実績を検証する。 安定的な受取利息・配当金収入を獲得する。 → 新たな取り組みを検討する。	→ 新たな取り組みを提案し、実施する。	→ 新たな取り組みを実施し、検証する。			未来永劫に亘り本学園の運営を継続的に資金支援し、健全かつ強固な財政基盤を確立するために、経済・金融環境と運用リスクを踏まえた運用目標の設定を検討する。 また、他法人の動向を確認しながら、アセットオーナー・プリンシプルの表明について検討し対応する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-9 法人本部事務部門》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(6)組織運営と人材育成	(6)-1 2025年4月1日付で行った私立学校法改正に伴うガバナンス改革について、新しい組織体制・運営の実効性と継続性を検証する。	(6)-1-1 2025年4月1日施行の私立学校法改正に伴い実施したガバナンス改革について、総合企画委員会で検証を行う。	→ 総合企画委員会で検証	→ 総合企画委員会で検証。必要に応じて寄附行為施行細則や付議事項一覧等の見直しを行う。				4月1日より新たな組織体制・運営が開始されたことを踏まえ、下半期に、総合企画委員会を中心として、付議事項一覧と学園会議日程等の実効性と継続性を検証する。			
								【新規取組】 私立学校法改正に伴い,役員および評議員の権限や責任に変化が生じることを踏まえ、期待される役割を適切に果たしていただけるよう、外部講師による研修機会を設ける。			
		(6)-1-2 南山学園の運営を担う人材を継続して登用できるよう、毎年度1回以上、設立母体であるカトリック神言修道会と意見交換する機会を設ける。	→ カトリック神言修道会との意見交換機会について検討・相談	→ カトリック神言修道会と意見交換する機会を設ける。				理事会において実施方法ならびに意見交換内容を検討し、カトリック神言修道会へ意見交換機会の創設を提案する。早期実現が可能となれば、下半期に意見交換の機会を設ける。			
		(6)-1-3 外部資金獲得ワーキンググループを設置し、戦略的かつ組織的に学生生徒等納付金以外の収入（寄附金、補助金等）を獲得できるよう、組織体制ならびに人員体制のあり方について検討する。	→ ワーキンググループ設置・検討	→ ワーキンググループ設置・検討	→ 理事会へ提案			2024年度の学園としての募金体制検討ワーキンググループからの答申を踏まえ、「南山学園ファンドレイジング戦略会議（仮称）」を設置する。当該会議において、南山大学を中心とした各単位校相互の情報交換と、各単位校におけるファンドレイジングへの取り組みに向けた意識の醸成を目的とした企画の検討を行う。			
	(6)-2 カトリック神言修道会と連携し学園の運営を担う人材の育成	(6)-2-1 理事長をはじめとする神言会員による研修の機会を設け、南山学園設立の目的を理解し、更なる発展に貢献できる人材を育成する。	研修の実施 次年度研修の計画	研修の実施 次年度研修の計画	研修の実施 次年度研修の計画	研修の実施 次年度研修の計画	研修の実施 次年度研修の計画	南山学園事務職員等研修委員会または南山大学スタッフ・ディベロップメント（SD）委員会において、南山学園が目指すキリスト教世界観に基づく教育の目標について理解を深め、教育理念の具体的な実現に向け考え行動に繋がる研修を計画し、教職員を対象に実施する。			
	(6)-3 業務のシステム化推進	(6)-3-1 ICTの効果的な活用を目指し、先行して学園および大学規程集の取扱について、システム化を推進し、学園全体の業務の効率化、情報共有の促進を図ります。学園および大学導入後、その効果を確認し、単位校の取扱を検討する。	→ システム化導入に向けて検討（学園・大学）	→ 学内提案・承認・実施準備（学園・大学）	→ システム導入（学園・大学）	→ システム化導入に向けて検討（単位校）		規程のシステム化導入に向けて、システム業者や導入機関などに対してヒアリングを行う。そのヒアリングをもとに、導入のメリット・デメリットを整理し、取扱を検討する。			
	(６)-4 公文書管理システムの構築	(6)-4-1 公文書管理について学園共通プラットフォームの構築を検討し、業務の効率化を図る。	→ 各単位校の状況調査・ヒアリング・検討	→ 学園内提案・承認・実施準備	→ 共通プラットフォームの開発・導入			各単位校の公文書管理方法をヒアリングし、学園共通での管理方法について検討する。			

*1) 評価欄は、〇（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため〇（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。